

特集 生涯にわたる心身の健康の保持増進のために

今後の健康に関する教育及びスポーツの振興について

6 平成一〇年 年頭の所感 ◇文部大臣 町村信孝

巻頭言 12 生涯にわたる心身の健康の保持増進のために ◇石川忠雄

座談会 14 現代の社会変化と

心身の健康とスポーツ

◇(出席者) 加賀谷照彦／和唐正勝／恵美三紀子／河野一郎／秋山エリカ ◇(司会) 北村幸久

論文 24 保健体育審議会答申のポイント ◇落合 優

27 学校健康教育の方向と展望 ◇高石昌弘

30 生涯にわたるスポーツライフの実現に向けて ◇山口泰雄

33 競技力向上方策の概略 ◇浅見俊雄

エッセイ 36 保体審の審議に参加して ◇本間三和子

38 スポーツ心弾ませて ◇増田明美

40 日本のアイスホッケーについて ◇ビヨン・キンディング

事例紹介 ① 42 健康教育に関する学校栄養職員の取組 ◇社団法人全国学校栄養士協議会

事例紹介 ② 44 組織的に心とからだの健康づくりを目指す健康教育 ◇東京都足立区立花保中学校

事例紹介 ③ 46 身近な学校施設開放 ◇東京都渋谷区教育委員会

事例紹介 ④ 48 総合型地域スポーツクラブモデル事業 ◇北九州市教育委員会

事例紹介 ⑤ 50 日本サッカー協会・選手育成システム ◇財団法人日本サッカー協会

解説 52 生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について ◇体育局体育課

57 平成八年度 体力・運動能力調査結果の概要 ◇体育局生涯スポーツ課

カラー

1 ある日の学校訪問記

◇鹿児島大学教育学部附属幼稚園 (鹿児島県)

4 天然記念物歳時記

◇タンチョウ

表2 名作シリーズ ◇染付絵変り皿

表3 文化財紹介 ◇蒔繪

10 であいふれあい ◇吉田 都

58 焦点 文教施設

63 中教審ニュース

68 都道府県発 教育芸術文化スポーツニュース

◇山形県 村山市 ◇長野県 栄村

◇滋賀県 ◇佐賀県

70 どんな講座 こんな講座 上巻の公開講座から

◇東京水産大学 ◇武蔵野女子大学

72 現代スポーツあれこれ

◇長野オリンピック聖火リレーが始まる

74 科学はいま

◇脳の高次機能理解のための研究

76 行ってみようやってみよう

◇国立阿蘇青年の家

78 海外教育ニュース

80 文学のふもと ◇因幡の雪

82 鑑賞席 ◇人形浄瑠璃文楽公演 近松名作集

◇梵鐘の聲—平家物語より

84 編集後記

因幡の雪

あらた
新しき 年の始の 初春の

けふ
今日降る雪の いや重け吉事

(巻二十一—四五—六 大伴家持)

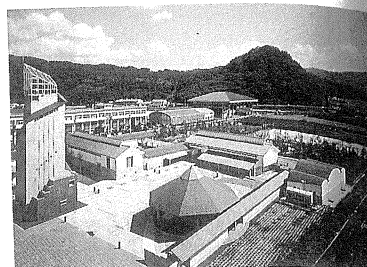
(出典「わたしの萬葉百首 下巻」大養 孝 著 プレック社)



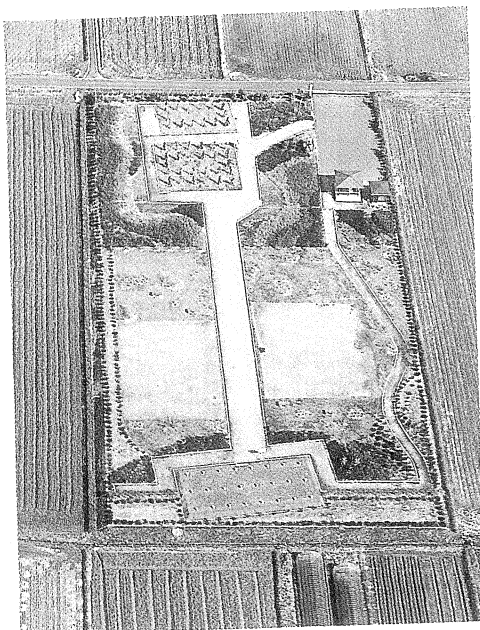
大伴家持歌碑



宇倍神社と麒麟獅子舞
国府町の名所の一つとして訪れる人が多い。



因幡万葉歴史館



因幡国庁跡

鳥取県東部に位置する国府町役場前の町屋橋を南へ渡って約四〇mほど行くと庁集落へ着きます。高さ二〇mもあるムクの巨木とクモの老樹の近くに大伴家持の歌碑があります。歌碑は、大正十一年に建てられ、高さ約三m近い大きな自然石に、次のように彫られています。

天寶三年春正月一日於因幡國庁賜饗國郡司等之宴歌一首
新年之始乃波都波流能家布敷流由伎能伊夜之家餘其騰

右一首守大伴宿禰家持作之

大伴家持は、今から約二二四〇年の昔、天平宝字二年(七五八)の六月に因幡の国の国守に任ぜられています。翌年の天平宝字三年(七五九)春正月一日、国庁の館に群臣を集めた新年の宴で、国守としての年頭の思いをこの歌に託したと言われています。

歌の意味は、「新しい年の始めの初春の今日、雪がしんと降り続いていきます。今年もこの降り積もる美しい雪のように、よいことが重なりますように。」という新年を寿ぐ歌です。また、当時四三歳の家持が、大伴総家の統領として藤原氏に対抗しながらも、ともすれば衰えようとする大伴一族の将来を案じた挽歌だという解釈もあります。

万葉集は、大伴家持によつて編さんされました。この寿ぎの歌は、万葉集四五—六首の最後を飾る歌です。このことから国府町は、万葉集編さん終焉の地といわれています。

(鳥取県国府町教育委員会文化財係長 津川ひとみ)

特集 青少年の野外教育の推進

巻頭言 ● 8

現代の教育でいちばん大切な基本
野外教育 ◇三浦雄一郎

座談会 ● 10

生きる力を

はぐくむ野外教育

◇(出席者) 杉原 正／五十川隆夫／高梨房子／高野孝子
◇(司会) 尾山眞之助

提言 ● 20

企業からみた教育と自然体験 ◇後藤康男

● 24 環境問題を意識した

野外教育のすすめ ◇阿部 治

● 28 民間団体における野外教育の課題 ◇佐藤初雄

● 32 個を生かす野外教育 ◇土井浩信

事例紹介 ① ● 36

チャレンジ&クエスト

登校拒否児童・生徒の自然体験活動 ◇山口県教育委員会

事例紹介 ② ● 40

自然・人・地域に学ぶ ◇兵庫県立南但馬自然学校

事例紹介 ③ ● 44

限りなき成長——野尻学荘

東京YMCA少年長期キャンプ ◇財団法人日本YMCA同盟

解説・資料 ● 48

青少年の野外教育の

充実に向けた施策

青少年の野外教育推進事業 ◇生涯学習局青少年教育課

カラー

1 ある日の学校訪問記

◇日南市立鉄肥小学校(宮崎県)

4 天然記念物歳時記

◇アマミノクロウサギ

表2 名作シリーズ ◇編

表3 文化財紹介

◇彦根城天守・附櫓及び多聞櫓

6 であいふれあい ◇吉野直子

52 焦点—文教施策

57 鑑賞席 ◇日本南極観測四〇周年記念

ふしぎ大陸 南極展

◇時代を語る「染」と「織」
墨書のある近世の染織

58 中教審コース

66 家庭教育のための取組

◇家庭教育への理解を深めるために

68 都道府県宛—教育芸術文化スポーツコース

◇福島県 ◇神奈川県

◇石川県松任市 ◇鹿児島県

70 どんな講座—こんな講座—大学の公開講座から

◇仙台電波工業高等学校 ◇金沢大学

72 現代スポーツあれこれ

◇スポーツ指導者養成制度について

74 科学はいま

◇「全地球史解説」研究プログラム

76 行つてみようやつてみよう

◇国立曽爾少年自然の家

78 海外教育コース

80 文学のふさと ◇怪談

82 刊行物紹介・お知らせ

84 編集後記

怪談

小泉八雲

耳なし芳一のはなし

「芳一！」

芳一は、依然として石のように静かである。——すると声は、いかにも不服らしげに、こんなことをいうのである。

「返事が無いな。これは怪しからぬ。しゃつめ、どこへ失せおったか見てくようわ」

たちまち、縁にあがる荒々しい足音がした。足音はのしり、のしりと近づいて、芳一のすぐそばまできて、ぴたりと止まった。芳一は、身うちが胸の動悸でがたがた震うように感じた。あたりは闇として、物音ひとつしない。

やがて荒びた声が、芳一のすぐ耳もとで、こんなことをつぶやいた。——

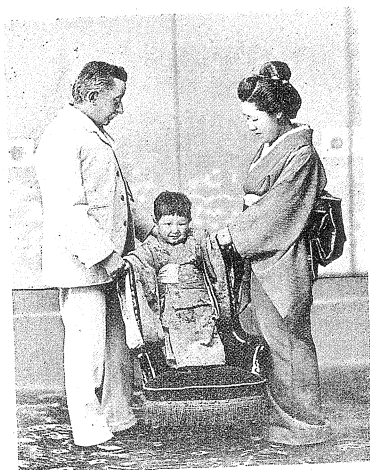
「ここに琵琶があるぞ。だが、琵琶法師が見えぬ。ただ耳がふたつ見えてあるだけじゃ。……さてこそ、返事をせぬはずじゃわ。返事をしようにも口がない。法師の五体は、耳のこつておるだけじゃ。……よし、しからばここの耳を、大殿に持つて帰つて進ぜようわえ。殿の厳命をばよくぞ勤めたといふ、こりやよい証拠じゃ」

そのせつなであつた。芳一は、くろがねの指に両の耳をむずとつかまれたと思つと、たちまち、びりびりと引き裂かれるのをおぼえた。その痛さはひじょうなものであつた。が、それでも芳一は声をたてなかつた。重い足音は、ずしり、ずしりと縁をしきつていった。やがて足音は庭に降り、それから往來の方へ出ていき、——そして消えた。芳一は、両の首すじから、なにやらねばねばした温いものがたらたら流れ落ちるのをおぼえたが、それでも手を揚げることをしなかつた。

(出典「怪談・雪隠他」平井三郎 恒文社)



小泉八雲



小泉八雲とセツ夫人（中央は長男・雄氏）

小泉八雲は、「雪おんな」や「耳なし芳一のはなし」などの「怪談」でよく知られています。彼がこうした話に心ひかれたのは、「神々の国の首都」である松江に住んだこともその一因にあると言えるかもしれません。

小泉八雲（本名・ラフカディオ・ハーン）は、一八九〇（明治二三）年に来日し、島根県尋常中学校の英語教師として松江に赴任しました。

松江に古き良き日本の姿を見いだしたハーンは、その風俗や人情を深く愛し、「知られぬ日本の面影」などの作品を通して我が国を広く世界に紹介しました。松江の人々もハーンのことを「へるん先生」と呼び親しんだと言います。

一年二か月余りの松江在任中に、ハーンは小泉セツという伴侶を得ます。後に帰化して小泉姓を名乗るのはこのためです。「八雲」の名は「古事記」にある「八雲立つ……」の古歌によります。

日本語の読み書きが十分にはできなかった八雲は、妻セツに語ってもらった怪異な話をもとに想を練り、「怪談」が生まれたのです。

夫妻が住んだ旧武家屋敷は松江城北側のお堀ばたにあり、現在では「へるん旧居」として公開されて



小泉八雲旧居 根岸邸

八雲が住んだ初めての戸建の家。あこがれの武家屋敷に住めたことを非常に喜んだ



松江城から市街地、宍道湖を望む

います。また、隣接する小泉八雲記念館では彼が愛用した数々の遺品や著書等を展示しています。この一帯は伝統美観保存地区として整備され、八雲が愛した城下町の面影を今も色濃く残しています。

（島根県教育委員会高校教育課指導主事 山本康治）

特集 ユネスコ50周年

巻頭言 ● 6 ユネスコの五〇年・三浦朱門

メッセージ ● 8 ユネスコ五〇周年に寄せて・フェデリコ・マヨール

● 9 ユネスコ五〇周年に寄せて・スラット・シルバリアナン

座談会 ● 10 ユネスコと我が国が果たすべき役割

・出席者 西島安則／三角哲生／猪口邦子／司会 本間政雄

論文 ● 20 世界の教育とユネスコ・潮木守一

● 22 ユネスコの文化遺産保護——その道のりと未来・伊藤延男

● 24 UNESCOとMOSTプログラム・石井米雄

● 26 地球環境科学に関するユネスコの役割・浅井富雄

● 28 国際組織としてのユネスコ・野口昇

● 30 ノン・フォーマル・エジューゲーション・青木怜子

事例紹介① ● 32 恵まれない地域における初等教育の普及と質的向上

——広島大学ユネスコAPEID事業・広島大学APEID事業実施委員会

事例紹介② ● 34 アジア・太平洋地域における識字教材の共同開発事業とその課題

・ユネスコ・アジア文化センター

事例紹介③ ● 36 識字教育協力——ユネスコ・世界寺子屋運動の展開と成果・日本ユネスコ協会連盟

事例紹介④ ● 38 高等学校におけるユネスコクラブ活動・宮崎県立宮崎北高等学校

事例紹介⑤ ● 40 地域ユネスコ活動の推進状況・太田ユネスコ協会

体験記 ● 42 アンシエート・エキスパートとしてユネスコ本部に勤務して・林川眞紀

解説 ● 44 我が国のユネスコ活動の概要・学術国際局国際企画課

特別記事 民間社会教育事業——その役割と展望

● 46 民間社会教育事業の果たす役割と今後の展望

——社会教育関係団体の行う事業を中心に・生涯学習局社会教育課

● 49 企業等が実施する社会教育事業

——その位置付けと関連施策・生涯学習局民間教育事業室

● 53 民間教育事業の現状

カラー

1 いまは個性ある日の学校訪問記

・丸瀬布町立丸瀬布中学校（北海道）

4 天然記念物歳時記

・蒲生のクス（鹿児島県）

表2 名作シリーズ・山王宮曼茶羅

表3 文化財紹介・山梨県鋳物師屋遺跡

出土品 一括

54 人・この道・大岡 信

55 教育・文化と地域づくり④・大分県野津町

58 焦点 文教施策

63 私の本棚から・山田竹實

64 中教審ニュース

66 都道府県発——教育・学術・文化ニュース

・栃木県・静岡県・京都府・熊本県

68 こんにちはにっぽん・ラビ・アトウル・アダウイア

70 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

・ふるさと交流体験教室実行委員会

72 海外教育ニュース

74 鑑賞席・特別展「花」

75 鑑賞席・ピカソ「愛と芸術

——ゲルニカへの道

76 科学はいま——理系へのいざない

・大阪大学微生物病研究所

79 読者からのたより

80 文学のふるさと・風の子供

82 お知らせ

84 お知らせ・編集後記

風の中の子供

いつもならば、そんな様子を大笑いで眺めるおじさんが、今日はハの字髭も厳めしく、三人を前に話し始めた。

「お母さんとは昨日からよく話をしたことだが、この家にお金もお金になるものも、到頭一つもなかった。警察へも会社へも、おじさんは行ってきたが、二日や三日でお父さんは帰って来ません。家も屋敷も、もしかしたら、会社がとつてしまいかも知れない。それでこれからは働けるものは働いて金をもうけ、働けないものは学校へ行つて一生懸命に勉強する。分ったか。そこで、三平はこれからおじさんのところへ行つて、秋からあちらの学校へ行く。勉強さえ出来れば、おじさんが大分まででもやってあげる。善太とお母さんは当分

この家に住み、いいところが見つかったら、そこで働き働き、善太は学校へ行く。いいかい。今までと違うんだから、決して我ままいうんでないよさ、お母さんもこんな時だ。気を強く持ち、二人もよくいうことを聞いて、何年か後には、こんなことも笑つて話すようにならなくちゃならんぞ。」

お医者さんのおじさんは帰る時間が急がれた。お母さんは、差押えから残された僅の三平の着物を風呂敷に包み、背負いカバンには本や鉛筆を入れた。善太は、ボンヤリ坐っている三平を井戸の方へ誘った。

「三平ちゃん、顔を洗う？」

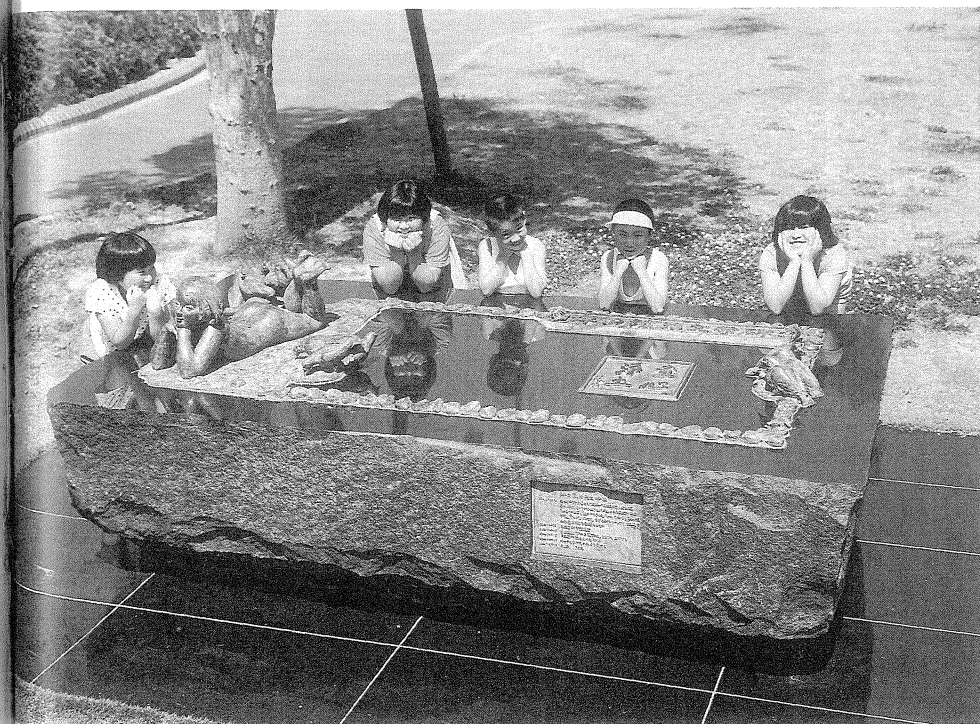
「ウン。」

「じゃ、来いよ。」

井戸端で善太は三平のためにバケツに水を汲んだ。洗面器もとつてやり、手拭まで持つて来た。ところが、洗った顔を、善太から渡された手拭でふこうとした途端に、ワートと三平は途方もない大声をあげて泣き出した。善太もビツクリしたが、お母さんが驚いて飛び出して来た。

「まあ、どうしたのッ。」

すると、三平は直ぐ泣くのをやめて、お母さんの方へ笑顔を見せた。



坪田譲治文学碑（岡山市立中央図書館前庭）



母校岡山市立石井小学校にある記念碑

坪田譲治は、明治三十三年に現在の岡山市島田本町に生まれ、幼少年時代をこの地で過ごした。大学卒業後、家業を継ぐため一時故郷に帰つたが昭和八年、文学に専念することを決意して再び上京した。昭和一〇年、「おけけの世界」で文壇に登場し、その後「風の中の子供」、「子供の四季」、「せみと蓮の花」など故郷の自然や生活を背景にした多くの作品を書いた。また、「かっぱとドンコツ」など数多くの童話集を刊行し、当時、小川未明、浜田廣介とともに日本童話の三大家と称された。

譲治の文学は、ありのままの子供の生活と心理を描き、清純で素朴な中に高い人間精神と社会観をたたえており、かつて他の作家によつて書かれたことのない、全く新しいものであった。それは今日なおみずみずしさを保ち、読む者の心を打つ（坪田譲治文学碑由来）から。

「風の中の子供」は、昭和十一年に新聞に連載され、多くの読者から共感を得た作品である。二・二六事件直後の暗澹たる時代にあって、人々の唯一の望みは未来を託すべき子供であった。善太と三平を主人公にしたこの物語は、子供たちにとって本当の人格と人権を与え、社会的存在

として描いた日本文学史上最初の作品であるとされている。そして子供だけではなく大人の心をもとらえたのである。

岡山市は、昭和五九年に「坪田譲治文学賞」を制定。市内には、彼の記念文庫や遺品コーナーを設けている岡山市立中央図書館、自筆原稿などを展示している吉備路文学館があり、人々が足を運んでいる。譲治を敬愛する人々は「善太と三平の会」を結成して現在も活動している。平成二年には生誕一〇〇年記念事業が実施され、読書感想文コンクール、展覧会、記念誌刊行などが行われた。

（岡山市教育委員会 藤井洋一）
指導課指導主事

特集 第15期中央教育審議会 第一次答申

巻頭言 ● 8 新世紀に向けた教育の改革 ◆ 奥田幹生

座談会 ● 10 二一世紀を展望した教育改革

◆(出席者)有馬朗人／黒田あゆみ／中川志郎／森 隆夫 ◆(司会)富岡賢治

随想 ● 20 中教審に参加して ◆ 里中満智子

● 22 楽しい作品づくり ◆ 薄田泰元

論文 ● 24 “知恵を育てる学校”をどうつくる ◆ 天笠 茂

● 26 いじめ・登校拒否問題の取組について ◆ 森田洋司

● 28 家庭教育の具体的内容 ◆ 詫摩武俊

● 30 中教審の答申を読んで考えたこと

地域社会における教育を担う立場から ◆ 松下俱子

● 32 国際社会に生きる力を ◆ 掛川 久

● 34 進展が期待できる教育の情報化 ◆ 清水康敬

● 36 中央教育審議会第一次答申を読んで ◆ 米村傳治郎

● 38 子供たちの視線からの教育改革を ◆ 櫻井 修

解説 ● 40 第一五期中央教育審議会第一次答申の
概要について ◆ 大臣官房政策課

● 45 第一次答申を踏まえた施策の展開

寄稿 ● 48 二一世紀のユネスコを考える

理想と現実のはざま ◆ 望月敏夫

カラー

「ある日の学校訪問記」

◆ 平田市立平田幼稚園(鳥根県)

4 天然記念物歳時記「花ごまみ」

◆ 鈴が峰のヤシソウ発生地(徳島県)

表2 名作シリーズ ◆ 彩雨

表3 文化財紹介 ◆ 小鹿田焼

6 てあいふれあい ◆ 恵本裕子

54 焦点1 文教施策

61 鑑賞席 ◆ 室町時代の狩野派
画壇制覇への道

62 中教審ニュース

64 お知らせ

70 都道府県別―教育・学術文化―ホト・ツ・ユース

◆ 青森県 ◆ 新潟県 ◆ 千葉県 ◆ 山口県

72 どんな講座こんな講座―大学の公開講座から

◆ 名古屋大学 ◆ 東京成徳大学

74 科学はいま―理工系へのいざない

◆ 岡山大学固体地球研究センター

77 ポイント生涯学習

◆ 大会テーマは
「未知のわたしと出会う道」

第8回全国生涯学習フェスティバル

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

◆ 鹿児島県佐多町大泊子ども会

80 海外教育ニュース

82 文学のふるさと ◆ 千鳥

84 編集後記

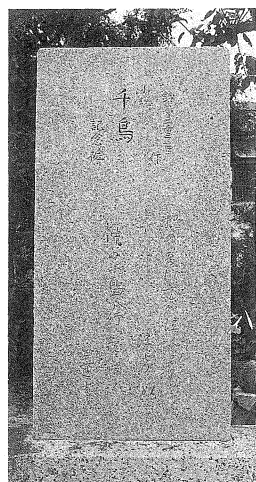
千鳥

鈴木三重吉

障子を開けて見ると、麓の蜜柑畑が更紗の模様のやうである。
白手拭を被った女たちがちら／＼とその中を動く。蜜柑を積んだ馬が四五匹続いて出る。やはり女が引いてゐる。向ひの、縞のやうになった山島に烟が一筋揚つてゐる。烟がぼろ／＼と光る。烟は斜に広がって、木は夕方の色と溶けてゆく。



原爆ドーム（広島市）の横にある三重吉の胸像と赤い鳥頭彰碑



能美町にある「千鳥」記念碑
碑文 「親のそばでは泣くにも泣くぬ 沖の小島へ行って泣く」

大石 泰

（広島県教育委員会指導課指導主事）

昭和三年、鈴木三重吉賞が設けられ、今でも毎年多くの子供たちが応募している。鈴木三重吉の志は現在まで脈々と受け継がれている。

（広島県教育委員会指導課指導主事 大石 泰）

カキいかだが格子模様を描く波静かな広島湾。宇品港（広島）から高速艇で三〇分。陽光に包まれた蜜柑の島、能美島に着く。潮風が吹き抜ける磯や白い砂浜に、穏やかな波が打ち寄せる。なだらかな山の斜面。今日も汗を流して働く人を包む蜜柑畑。更紗の模様のような。

鈴木三重吉の「千鳥」の一節がよみがえる。

明治から大正にかけて児童文学者・童話作家として名を成した鈴木三重吉は、明治一五年広島市で生まれた。

東京帝国大学在学中に胃病と心の愁いをいやすため、能美島を訪れ、回船問屋下田家に滞在した。人々の厚い人情を温かい風土にふれ、次第に心の病が軽くなっていく。その体験をもとに描かれたのが「千鳥」である。

島で知りあつた若く美しいお藤さんへの淡い想いを縦糸に、島の様々な風物を横糸として、瀬戸内の叙情を行間ににじませた名作「千鳥」のどかな島の情景を印象的に描いたみずみずしい作品である。「僕名作を得たり」と夏目漱石が激賞したことはよく知られている。

鈴木三重吉はこの作品で叙情的な作風の新進作家として文壇に登場することとなる。その後彼は、「子どももおとなと同じように一個の独立した人格を持つており、優れた作品に触れて成長していくべきだ」と主張して、森鷗外らの賛同を得、大正七年、児童文学雑誌「赤い鳥」を創刊した。日本で初めての、児童にふさわしい芸術的価値のある童話・童謡の創作運動であり、その功績は大きい。



広島市の中心地紙屋町にある三重吉のレリーフ

特集 情報ネットワークを活用した新しい学校教育

巻頭言 ● 8

情報化の進展と学校教育 ◇石井威望

座談会 ● 10

情報通信ネットワークを

活用した新しい学校教育

◇出席者 西村哲子／林 英輔／武田国夫／野中ともよ ◇司会 河村潤子

論文 ● 22

海外の情報教育 ◇清水康敬

提言 ● 28

特殊教育における

情報通信ネットワーク ◇中村 均

エッセイ ● 30

未来の教室 ◇平木理花

事例紹介 ① ● 32

岐阜県における

教育情報ネットワークの活用 ◇岐阜県教育委員会

事例紹介 ② ● 36

子どもの可能性を広げる

ネットワーク学習 ◇千葉市立新宿小学校

事例紹介 ③ ● 40

郷土を見つめ、世界へ伝える

インターネットの活用 ◇鹿児島県東町立鷹巣中学校

解説 ● 44

情報化の進展に対応する文教施策の推進

新しい学校の構築へ ◇初等中等教育局中学校課情報教育室

カラー

1 ある日の学校訪問記

◇石川市立石川中学校（沖縄県）

4 天然記念物歳時記

◇スナメリクジラ廻游海面（広島県）

表2 名作シリーズ◇コンボジション

表3 文化財紹介

◇綿業会館本館

6 であいふれあい◇米村傳治郎

48 焦点—文教施策

51 中教審ニュース

65 お知らせ

68 家庭教育のための取組

◇家庭教育への理解を深めるために

70 都道府県発—教育・文化・スポーツニュース

◇北海道足寄町 ◇三重県宮川村

◇京都府 ◇山口県豊北町

72 どんな講座こんな講座—全の公開講座から

◇名古屋工業大学 ◇国学院大学

74 科学はいま

◇ケノムサイエンス

76 行つてみようやつてみよう

◇国立日高少年自然の家

78 海外教育ニュース

80 文学のふもと◇山羊の歌

82 鑑賞席◇陶磁器の文化史

84 編集後記

山羊の歌

中原中也

歸郷

柱も庭も乾いてゐる
今日は好い天氣だ
縁の下では蜘蛛の巣が
心細さうに揺れてゐる
山では枯木も息を吐く
あゝ今日は好い天氣だ
路傍の草影が
あどけない愁みをする



中原中也
18歳の頃



周辺を山々に囲まれた山口市の風景

これが私の故里だ

さやかに風も吹いてゐる

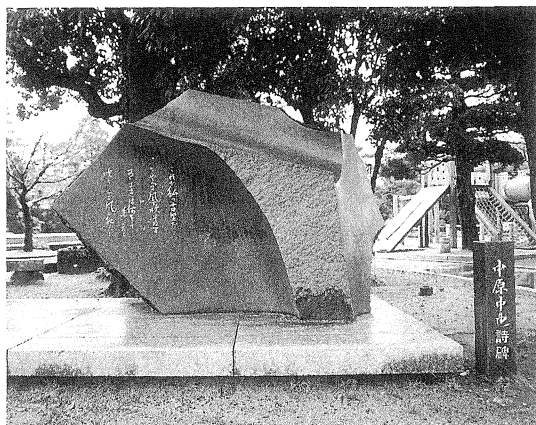
心置なく泣かれよと

年増婦の低い聲もする

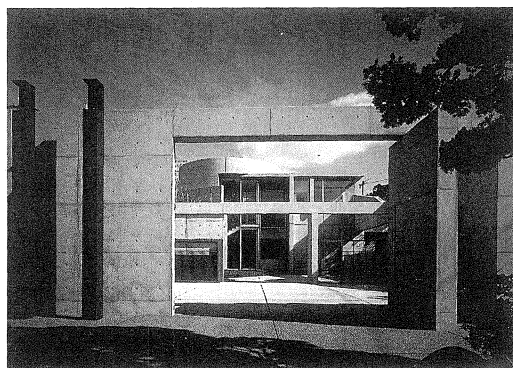
あゝおまへはなにをして來たのだと……

吹き來る風が私に云ふ

(出典「中原中也全集」角川書店)



高田公園「歸郷」詩碑



中原中也記念館

中原中也は、山口市湯田温泉に生まれ育ちました。中学生時代後半は京都に住み、その後上京。僅か三〇年の生涯を鎌倉の地で閉じたのです。短い人生でしたが、その間、実にたびたび歸郷しました。生前唯一刊行した詩集「山羊の歌」に収められた作品「歸郷」には、ふるさとへ

の思いと、青春への哀惜と悔恨が歌い上げられています。心細そうな蜘蛛の巣や、枯木の姿、草影のかなしみは、中也の揺れ動く心情の表現なのでしょう。

生家に近い高田公園にある詩碑には、この作品の一節が刻まれました。書は小林秀雄、撰文大岡昇平。共に中也の若き日の友人たちです。生家の中原医院は昭和四十七年に焼失、中原中也記念館はその跡地にあります。温泉街特有のさざめきの中に位置しますが、山口市全域は、周辺を山々に取り囲まれた静かな盆地です。街からすぐに、川土手が伸び田んぼが広がり、さわやかな風が吹き抜けるたたずまいを残しています。

作品「冬の長門峡」や「悲しき朝」にも歌われた水の流れや、陽の光りが透明に人々の胸に伝わってくるようです。このような空間から、詩人の魂は強い響きを受けとめたのかも知れません。

市内吉敷の里には、中也自筆の文字を刻んだ自然石「中原家累代之墓」が建っています。作品「一つのメルヘン」の風景そのままの水無河原(吉敷川)のほとり、ふるさとの風の中に、中也は安らんでいることでしょう。

(中原中也記念館館長 福田百合子)

新たな文化財保護の推進

巻頭言 ● 8 文化財保護のあゆみ

文化財保護法改正に寄せて ◆ 西川杏太郎

座談会 ● 10 文化財保護の新たな展開

◆ (出席者) 木原啓吉／荒井 桂／嶋崎 丞／小島美子 ◆ (司会) 嶋谷康文

論文 ● 22 地方公共団体から見た文化財保護制度について ◆ 野村興兒

エッセイ ● 26 上方落語の効果音 ◆ 桂 米朝

事例紹介 ① ● 28 歴史的建造物の文化財登録

京都市における試み ◆ 京都市文化市民局文化財保護課

事例紹介 ② ● 31 埋もれた文化財掘り起こし

「未指定文化財の登録」制度 ◆ 熊本県山江村教育委員会

事例紹介 ③ ● 34 フランスの文化財登録制度について

日本における課題も含めて ◆ 羽生修二

解説 ● 37 文化財保護法の改正について ◆ 文化庁文化財保護部伝統文化課

Q & A ● 45 文化財登録制度Q&A

特別記事 今後の医療関係者養成の在り方

● 48 二一世紀に向けての

医療人養成の在り方について ◆ 鈴木章夫

● 51 二一世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して

二一世紀医学・医療懇談会第一次報告 ◆ 高等教育局医学教育課

● 53 医学教育における改革事例

◆ 高知医科大学・東京女子医科大学・大阪大学医学部

1 ある日の学校訪問記

◆ 滋賀県立国際情報高等学校 (滋賀県)

4 天然記念物歳時記「花」よみ

◆ ハナス自生南限地帯 (茨城県・鳥取県)

表2 名作シリーズ ◆ 蔬菜・静物

表3 文化財紹介 ◆ 刺繍三味耶幡

カラー

6 であいふれあい ◆ 羽生書治

57 焦点 ― 文教施策

60 中教審ニュース

64 ポイント生涯学習

◆ 生涯学習情報提供システムの整備充実

66 都道府県発 ― 教育・学術・文化スポーツニュース

◆ 福島県 ◆ 埼玉県 ◆ 岡山県 ◆ 福岡県

68 どんな講座こんな講座 ― 大学の公開講座から

◆ 東北大学 ◆ 京都府立大学

70 現代スポーツあれこれ

◆ 二〇〇二年ワールドカップについて

72 科学はいまー理工系へのいざない

◆ 東北大学素材工学研究所

73 お知らせ

76 鑑賞席 ◆ 日本人の源流をさぐる

ビジュアル展

◆ 美術家の冒険

多面化する表現と手法

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

◆ 青森県浪岡町教育委員会

80 海外教育ニュース

82 文学のふもと ◆ 二十四の瞳

84 編集後記

二十四の瞳

壺井 栄

「さ、みんな、じぶんの名前をよばれたら、大きな声で返事するんですよ。——岡田磯吉くん！」

背の順にならんだので一番前の席にいたちびの岡田磯吉は、まさきにじぶんが呼ばれたのも気おくれのしたもどであったが、生まれてはじめてクンといわれたことでもびっくりして、返事がのどにつかえてしまった。

「岡田磯吉くん、いないんですか。」

見まわすと、いちばんうしろの席の、ずぬけて大きな男の子が、びっくりするほど大声で、答えた。

「いる。」

「じゃあ、ハイって返事するのよ。岡田磯吉くん。」

返事した子の顔を見ながら、その子の席へ近づいてゆくと、二年生がどっと笑いだした。本ものの岡田磯吉は困って突っ立っている。

「ソソキよ、返事せえ。」

きょうだいらしく、よくにた顔をした二年生の女の子が、磯吉に

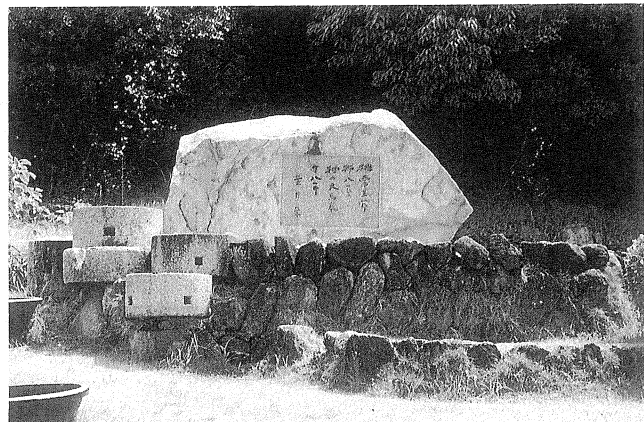
むかって、小声でけしかけている。

「みんなソソキっていうの？」

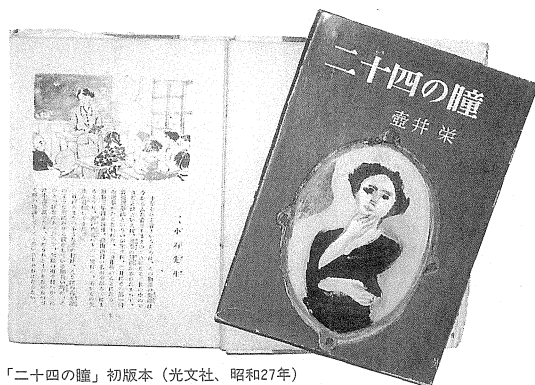
先生にきかれて、みんなは一生にうなずいた。

「そう、そんな磯吉のソソキさん。」

また、どっと笑うなかで、先生も一しよに笑いだしながら鉛筆を動かし、その呼び名をも出席簿に小さくつけこんだ。



壺井栄文学碑（坂手向いが丘）



「二十四の瞳」初版本（光文社、昭和27年）



「二十四の瞳」の舞台となった坪の分敷場

壺井栄（つばい・さかえ）——明治三二年八月五日、香川県小豆郡坂手村（現在の内海町坂手）で、父岩井藤吉、母アサの五女として生まれた。

父はタル職人であった。六歳で坂手尋常小学校へ入学。卒業のときは一等賞をもらった。大正二年（一四歳）、内海高等小学校卒業のあと、島の郵便局や役場へ勤めた。

大正一四年（二六歳）、上京して同郷出身の詩人・壺井繁治と結婚。夫が治安維持法で投獄されて苦労を重ねるが、宮本百合子や佐多稲子のすすめで、処女作「大根の葉」を発表する。

以来、「厩」、「柿の木のある家」、「母のない子と子のない母と」、「二十四の瞳」、「雑居家族」など、次々と話題作を書き、中でも昭和二七年に発表された、大石先生と二人の子供たちを描いた「二十四の瞳」は、昭和二九年、木下恵介監督、高峰秀子主演による映画化で、「小豆島ブーム」を呼んだ。

栄は、昭和四二年、東京で没。六七歳。昭和四五年、ふるさと内海町の丘に壺井栄文学碑が完成。昭和六二年、「二十四の瞳」二度目の映画化のオープニングセットを活用した「二十四の瞳・映画村」が人気を呼び、年間約二六万人の観光客が訪れている。映画村内にある壺井栄文学館には、栄の肉筆原稿愛用の万年筆、初版本などの展示のほか、壺井繁治や同郷出身の作家黒島伝治コーナーもある。また、香川県内の小・中・高校生を対象に文芸作品を公募している壺井栄賞は、今年二四回目を迎えた。

（壺井栄文学館館長 佐々木正夫）

特集 スポーツの振興と
地域づくり

巻頭言 ● 6

スポーツ振興と地域づくり
——生活スポーツがその基本・宇土正彦

座談会 ● 8

我が国のスポーツの振興と
地域づくりの今後の展開
・山岸孝 川淵三郎／西川 彰／三ツ谷洋子・岡本 石川 晋

論文 ● 18

スポーツ振興と地域づくりの現状と課題
・大木昭一郎

● 22

ヨーロッパの地域スポーツクラブ・池田 勝

エッセイ ● 26

走ることの楽しさすばらしさ・宮原美佐子

事例紹介① ● 28

総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業
——大谷コミュニティスポーツクラブの誕生と今後の展開
・北九州市教育委員会

事例紹介② ● 32

ネオ・スポルクロス21
——大分県スポーツ推進計画・大分県教育委員会

事例紹介③ ● 36

地域ぐるみで活動するスポーツ少年団
・埼玉県スポーツ少年団

● 40

Q & A ・体育局生涯スポーツ課

特別記事 博物館ルネサンス——その可能性と展望

● 46

これからの博物館——イコム'95会議から・中川志郎

● 48

事例でみる博物館ルネサンス

● 52

博物館振興施策の概要・生涯学習局社会教育課

カラー

1 いきいき個性ある日の学校訪問記

・新潟大学教育学部

附属新潟小学校(新潟県)

4 天然記念物歳時記

・丹那断層(静岡県)

表2 名作シリーズ・一休和尚像

表3 文化財紹介・岩手銀行旧本店本館

54

人・この道・杉下 茂

55

教育・文化と地域づくり ● 岐阜県大和町

58

焦点——文教施策

64

お知らせ

65

私の本棚から・小野誠志

66

中教審ニュース

68

都道府県別——教育・学術・文化ニュース

70

茨城県・長野県・岐阜県・山口県

72

こんにははにっぽん・ヒリー・グレース・ノゼー

74

'96アトラクター我が国競技スポーツの最前線

76

・バドミントン

77

科学はいま——理工系へのいざない

78

・東北大学加齢医学研究所

79

鑑賞席・現代美術への視点IV

80

絵画、唯一なるもの

82

ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

84

・奈良国立博物館

86

海外教育ニュース

88

文学のふるさと・寒山落木

89

編集後記

正岡子規

寒山落木

若鮎の二手になりて上りけり

夏嵐机上の白紙飛び尽くす

赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

いくたびも雪の深さを尋ねけり



松山市出合（出合橋北）
「若鮎の二手になりて上りけり 子規」の句碑

子規記念博物館の
展示室内
（愚陀仏庵前）



ミュージカル
「子規の青春」



平成六年八月四日、愛媛県民文化会館メインホールの舞台いっぱいにはじける若きミュージカル「子規の青春」――第一八回全国高校総合文化祭総合開会式第三部「愛媛の人と文化」において、愛媛が生んだ正岡子規の青春時代を、本県の高校生たちが演じ、好評を博した。愛媛において、子規は今なお生きており、親しまれ愛されている。

正岡子規は、慶応三年、伊予国温泉郡（現松山市）で生まれ、明治二五年に入社した新聞「日本」において、俳句や短歌の革新を唱えた。明治二八年からは脊椎カリエスのため病床にありながらも、明治三五年に亡くなる直前まで、旺盛な文学活動を続けた。

句集「寒山落木」は、子規自身が編集清書して稿本としたもの。総句数一万二八二六句。明治一八年から二九年に至る作品が収録されている。

松山市道後公園には、松山市立子規記念博物館がある。正岡子規の世界を通して、より多くの人々に松山の伝統文化や文学についての認識と理解を深めてもらい、新しい文化の創造に役立てることを目的として開設されたもので、昭和五六年のオープン以来、約二三〇万人が訪れている。

愛媛県は、子規ばかりではなく高浜虚子など多くの優れた俳人を輩出しているが、句碑の多さという点でも、俳句王国の名にふさわしい。愛媛県高等学校教育研究会国語部会の編集による「愛媛の文学碑」（平成六年二月発行）には、子規の句碑だけで七五句が掲載されており、そのうち約七割が、「寒山落木」所収のものである。また、中学校における選択教科としての国語の学習指導で、身近にある文学碑に着目し、体験的な学習をさせる試みなどもなされている。

（愛媛県教育委員会指導部高校教育課
指導主事 藤田聡司）

21世紀を見据えた海外子女・帰国子女教育

6 平成一一年年頭の所感◇文部大臣 有馬朗人

巻頭言 12 これからの海外子女・帰国子女教育―猪口邦子

座談会 14 二一世紀を見据えた

海外子女・帰国子女教育

―出席者 池上久雄／斎藤三郎／平野吉三／小平桂子アネット／(司会)泉紳一郎

論文 26 帰国子女教育の未来像 児島邦宏

30 インターネットの活用による 海外子女教育の未来像 折田一人

エッセイ 34 帰国子女としての誇りを持つて 宇田麻衣子

体験記① 36 シンガポールの自然、社会の中で「豊かな国際性を育てる」横断的・総合的な学習 ―シンガポール日本人学校・小学部

体験記② 38 補習授業校相談室は宝物！ ―デトロイト補習授業校

体験記③ 40 点と線から、面とネットワークへ ―つくば市教育委員会

体験記④ 42 ボゴタ日本人学校における 国際理解教育 山川龍一

体験記⑤ 44 ヌネスブルグ日本人学校派遣教員としての 三年間を振り返って 石田篤司

体験記⑥ 46 『お母さん、ぼく人生かわったよ』 青井英子

体験記⑦ 48 夢を見つけるために…… 大庭陽沙

解説 50 海外子女・帰国子女・外国人子女 教育の現状

教育助成局海外子女教育課

カラー

1 記念館めぐり●ゆかりの地を訪ねて

堂本印象美術館 (京都府)

4 天然記念物歳時記

双石山

表2 名作シリーズ

石化した森

表3 文化財紹介

木造男神坐像

10 私と教育、私とつけ

セント・ギルバート

58 焦点―文教施策

66 中教審ニュース

68 インフォメーション

69 私の選んだ一冊

四方義啓

70 都道府県発

●教育・学術・文化・スポーツニュース

静岡県、鹿児島県、秋田県、三重県、

72 科学はいま

国立天文台ハワイ観測所

74 現代スポーツあれこれ

チアリーディング

76 海外教育ニュース

土佐日記

78 文学のふさと

80 インフォメーション

82 鑑賞席

編集後記

土佐日記

紀貫之

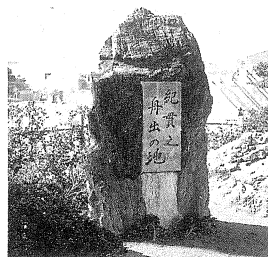
二十七日。大津より浦戸をさして漕ぎ出づ。かくあるうちに、京にて生まれたりし女子、国にてはかに失せにしかば、このごろの出で立ちいそぎを見れど、何言もいはず。京へ帰るに、女子のなきのみぞ、悲しび恋ふる。在る人々もえ堪へず。この間に、或人の書きて出だせる歌、
みやこへと思ふをもの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり

また、或時には、
あるものと忘れつなほなき人をいづらと問ふぞ悲しかりける
といひける間に、鹿児の崎といふ所に、守の兄弟、また異人これかれ、酒なにと持て追ひ来て、磯に下りゐて、別れ難きことをいふ。守の館の人々の中に、この来たる人々ぞ、心あるやうには、いはれほのめく。
かく別れ難くいひて、かの入々の、口網も諸持にて、

この海辺にて担ひ出だせる歌、
惜しと思ふ人や留ると葦鴨のうち群れてこそわれは来にけれ
といひてありければ、いといたく賞でて、ゆく人のよめりける、

さをさせどそこひも知らぬわたつみの深き心を君に見るかな
といふ間に、揮取りもののあはれも知らで、おのれし酒をくらひつれば、早く去なむとて、「潮みちぬ。風も吹きぬべし」と騒げば、船に乗りなむとす。

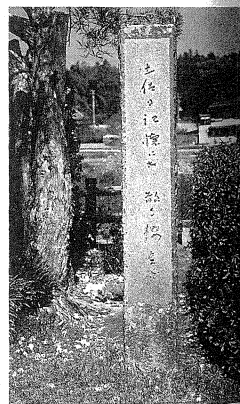
出典「土佐日記 蜻蛉日記」日本古
典文学全集九 昭和四十八年三月三〇
日 株式会社小学館



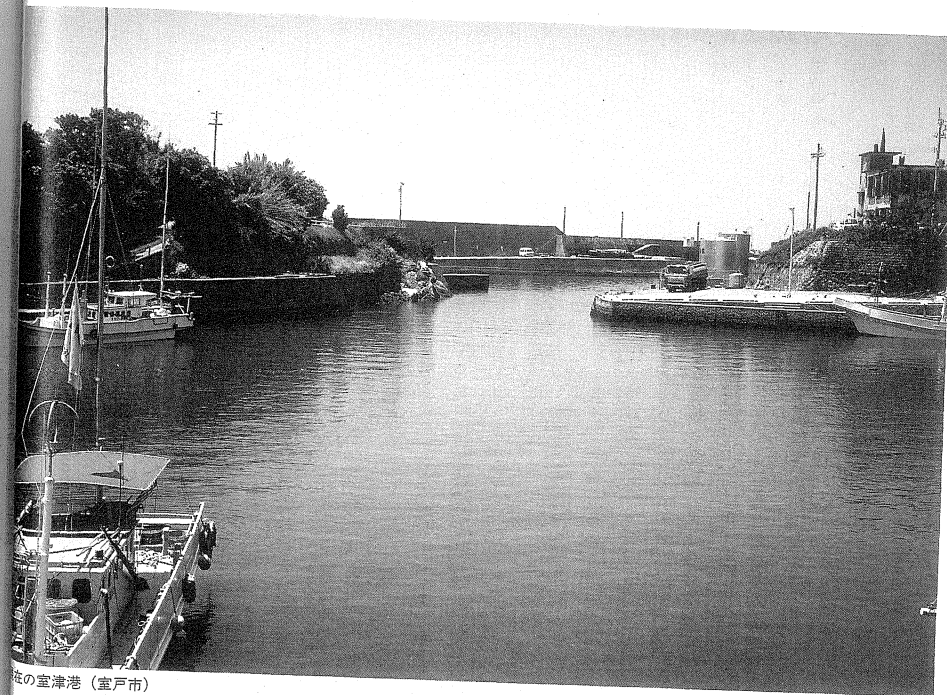
紀貫之舟出の地の記念碑
(高知市大津)



国分寺 (南国市国分)



高浜虚子句碑 (紀貫之邸址)



佐の室津港 (室戸市)

『土佐日記』は、承平四(九三四)年土佐国司の任を終えた紀貫之が京の都に帰るまでの旅程を書いた、我が国最初の日記文学です。土佐赴任を命じられたとき、貫之はすでに六〇歳を過ぎていたと言われています。高齢の貫之にとってこの任は重く、土佐の国は遙か異国のように思えたとの違いありません。
そんな貫之の心情を反映してか、作品は貫之が土佐を後にしようとしている場面から始まります。四年間の在任中の生活は全く描写されておらず、作品の中で土佐の地は幼い娘を亡くした悲しい思い出として暗示されているのです。

承平四年の暮れに大津(現・高知市大津)から船出をした貫之は、「みやこへと思ふをものかなしきは帰らぬ人のあればなりけり」と、都への望郷の想いと愛児への思慕を詠いつつ、ひたすら京を目指しました。貫之一行は海賊に怯え、天候に悩まされながら進んでいきます。室津(現・室戸市室津)では悪天候のために一〇日間も足止めされました。「都にて山の端に見し月なれど波より出でて波にこそ入れ。懐かしい京を遙かに想い、室津で貫之はこんな歌を詠んでいます。貫之がようやく京にたどり着いたのは、土佐を出て五〇日あまりも経った承平五年二月のことでした。

昭和六年土佐を訪れた高浜虚子はまさきに南国市比江の貫之の邸址を訪ね、「土佐日記懐にあり散る桜」の句を詠みました。「土佐日記」はいまなお多くのファンを持っています。

(高知県立文学館学芸員 野中佐知子)

特集 教育課程の改善

巻頭言 ● 8

明日を拓く教育課程 ◇河野重男

座談会 ● 10

二一世紀に向けた
教育内容を目指して

◇山本孝／無藤 隆／川合眞紀／鈴木 仁／堀内一男／
浅井経子／◇司会 徳重眞光

論文 ● 22

ゆとりの中で
知の創造を目指す教育課程 ◇山極 隆

解説 ● 26

「教育課程審議会
基本方向について（中間まとめ）」について
完全学校週五日制の下、ゆとりの中で（生きる力）を育成
◇初等中等教育局小学校課教育課程企画室

● 28 教育課程 Q & A

● 31 教育課程の基準の改善の
基本方向（中間まとめ）の概要

● 45 小学校、中学校、高等学校の
教科等の構成及び
授業時数等（案）について

カラー

1 ある日の学校訪問記
◇萩市立明倫小学校（山口県）

4 天然記念物歳時記
◇柴犬

表2 名作シリーズ◇卓上静物

表3 文化財紹介

◇ナカレ山古墳

6 であいふれあい◇神田陽子

50 焦点―文教施策

60 中教審ニュース

66 お知らせ

67 鑑賞席◇東洋絵画の精華
クリエランド美術館の
コレクションから

68 家庭教育のための取組
◇家庭教育部への理解を深めるために

70 都道府県発―教育・学術・文化・スポーツニュース
◇宮城県女川町 ◇静岡県
◇鳥取県 ◇北九州市

72 どんな講座 こんな講座―大学の公開講座から
◇国立天文台 ◇国際医療福祉大学

74 現代スポーツあれこれ
◇長野パラリンピック

76 科学はいま
◇二一世紀の光新時代を支える
有機非線形光学材料

78 行ってみようやってみよう
◇国立磐梯青年の家

80 海外教育ニュース

82 文学のふもと◇からたちの花

84 編集後記

からたちの花

北原白秋

からたちの花が咲いたよ。
白い花が咲いたよ。

からたちのとげはいたいよ。
青い針のとげだよ。

からたちは畑の垣根よ。
いつもいつもとほる道だよ。

からたちも秋はみのるよ。
まろいまるい金のたまだよ。

からたちのそばで泣いたよ。

みんなみんなやさしかったよ。

からたちの花が咲いたよ。
白い花が咲いたよ。

(出典「白秋全集」二六 岩波書店 一九八七年)



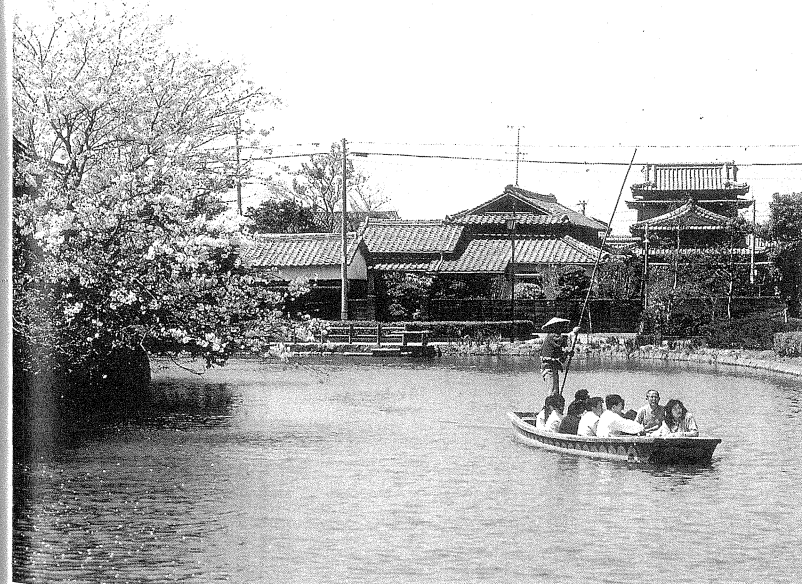
白秋生家
常時、一般公開されている



「帰去来」の詩碑
白秋祭「献詩」の様子



毎年11月2日に行われる白秋祭
「献詩」で文部大臣奨励賞を読みあげる受賞者(平成9年11月)



柳川市堀割 ドンコ舟風景

九州最大の大河筑後川は、筑紫平野を悠然と流れ有明海にそそぐ。その下流、矢部川との合流地にある柳川市。立花藩・二万石の城下町を水郷と呼ばせるのは、ドンコ舟が行き来する堀割である。観光客を乗せた舟が、船頭の持つ竹竿一本でゆるやかに水路を巡って行く。

「からたちの花」の作者、北原白秋は、明治一八年一月二五日に大商家「酒屋」の次男として、この水郷柳川で生まれた。矢留尋常小学校を神童と称されるほどの成績で卒業し、柳河高等小学校に入学。わずか二年の在籍で、県立伝習館中学校に入学した。その後、父親の反対を押し切って上京。詩人となることを志して早稲田大学英文科予科に進学した。

上京後、与謝野鉄幹主催の「新詩社」に同人として参加し、後雑誌「スバル」の同人となり、明治四二年三月に処女詩集「邪宗門」を出版。二年後に出版した「思ひ出」が上田敏の激賞を受け、詩人としての地位を固めることになる。

詩人としての評価もさることながら、後に国民詩人という名声を得ることになったのは、児童自由詩の運動を起し、子どもたちに親しみやすい、「とんぼの目玉」や「あわて床屋」など多くの童謡を作詞したことにある。

柳川市では、詩聖北原白秋の偉業をしのび、毎年一月二日を中心として「白秋祭」を開催しており、全国から寄せられた詩が「帰去来」の詩碑に献詩されている。

(福岡県教育委員会指導第二部 伊東孝純)
義務教育課指導主事

特集 マルチメディアを活用した 高等教育の展開

巻頭言 ● 8 マルチメディアと教育 ◆ 呂津純一郎

座談会 ● 10 マルチメディアの活用による高等教育の充実

◆ 出席者 久保田文人／開原成允／戸高敏之／坂元 昂 ◆ 司会 若松澄夫

提言 ● 22 マルチメディア時代と著作権 ◆ 半田正夫

エッセイ ● 24 大学生活の中での情報教育 ◆ 荒木直美

事例紹介① ● 26 東京工業大学における遠隔教育の取組 ◆ 東京工業大学

事例紹介② ● 28 立命館大学情報基盤整備の現状と今後 ◆ 立命館大学

事例紹介③ ● 31 海外の大学におけるマルチメディアの

活用状況 ◆ 放送教育開発センター

解説 ● 35 高等教育における高度情報化への

取組について ◆ 高等教育局企画課

資料 ● 42 マルチメディアを活用した二一世紀の

高等教育の在り方について(概要) ◆ 高等教育局企画課

特別記事

情報の世紀へ向けて

学術情報センター創立十周年を期に

● 46 学術情報センター創立十周年にあたって ◆ 猪瀬 博

● 48 学術情報センター十周年に寄せて ◆ 森 亘／緒方信一郎

● 51 新たな課題に挑戦する学術情報センター

— 創立十周年を期に ◆ 学術情報センター —

「ある日の学校訪問記」

◆ 清和村立清和中学校(熊本県)

4 天然記念物歳時記—花ごよみ

◆ 千石山サザンカ自生

北限地帯(佐賀県)

表2 名作シリーズ ◆ 浅間山

表3 文化財紹介 ◆ 赤穂城跡

カラー

6 であいふれあい ◆ 川口能活

56 焦点—文教施策

59 お知らせ

60 中教審ユース

66 ポイント生涯学習

◆ ウィークエンド・サークル活動推進事業

68 都道府県発—教育・学術・文化・スポーツ・ユース

◆ 群馬県 ◆ 長野県 ◆ 兵庫県 ◆ 徳島県

70 どんな講座こんな講座—大学の公開講座から

◆ 東京芸術大学 ◆ 産能大学

72 現代スポーツあれこれ

◆ アマ・プロスポーツの垣根

参加資格のオープン化

74 科学はいま—理工系へのいざない

◆ 京都大学 霊長類研究所

77 鑑賞席 ◆ 結成一〇〇年記念

白馬会—明治洋画の新風

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

◆ 財団法人フレイズタル協会

80 海外教育ユース

82 文学のふもと ◆ 次郎物語

84 編集後記

次郎物語

下村湖人

双方の話が一段落ついたところに、お民はふとお浜のほうに顔をむけ、しみじみとした調子で言った。

「お浜や、わたしお前と会えて、すっかり安心したよ。」

「まあもったいない——。」と、お浜はもうあとの言葉が出なかった。お民はしばらくしてから、

「次郎も大きくなったでしょう。」

「ええ、ええ。さっきもびっくりしたところでございます。」

「あたし、この子にも、お前にも、ほんとうにすまなかったと思うの。」

「まあ、何をおっしゃいます。」

「子供って、ただかわいがってやりさえすればいいのね。」

お浜には、お民の言っている深い意味がわからなかった。しかし気持ちだけはよく通じた。

「あたし、それがこのごろやっとわかって来たような気がするの。だけど、それがわかったところには、もう別れなければならぬでしょう。」

「まあ、奥様——」

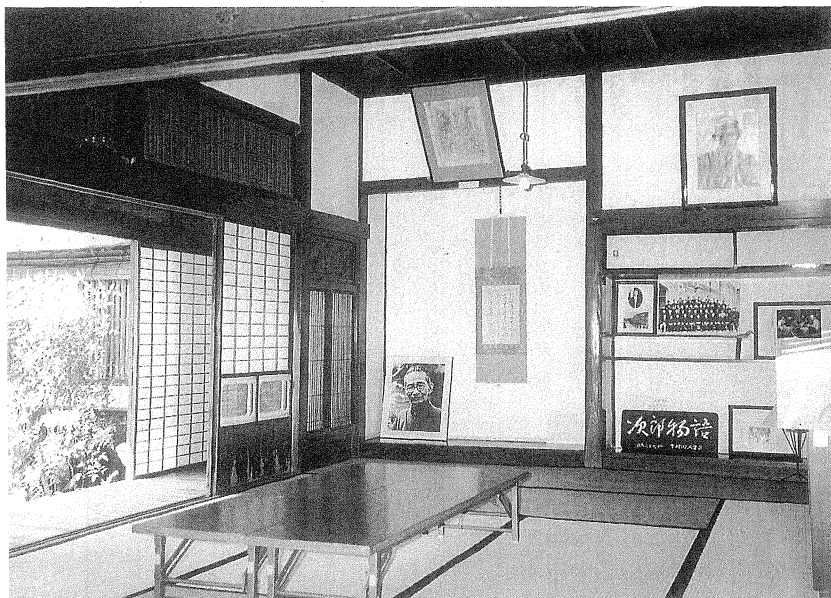
「あたし、死ぬのはもうこわくも何ともないの。だけど、この子にいやな思いばかりさせて、このままになるのかと思うと……」

「そんなこともあるものでございますか。」

「あたし、このごろ、いつもこの子に心の中であやまっているのよ。」

「まあ、——まあ、——」

次郎は、もうその時には、うつむいて涙をばたばたと落としていた。



生家座敷風景



湖人直筆の書

佐賀市から南東の方角に車で約二〇分の所に「次郎物語」の古里、神埼郡千代田町がある。

「次郎物語」は、教育者でもあった下村湖人（本名は虎六郎）が、晩年に著した作品である。昭和十一年（五二歳）に執筆を始め、同二十八年（七〇歳）に作品の第五部が出版されるまで、約一七年の歳月を費した。

作品の主人公である「次郎」は、湖人その人であることは知られているが、彼の生家を訪ねると作品の情景がまざまざと甦ってくる。今まで何回か映画化もなされており、近作では加藤剛氏が次郎の父親役を好演したことを記憶している人も多いことであろう。

屋根に上った次郎と父親が歌う「男は大きな川になれ」というシーンは、見る者に共感を与える場面である。もちろん、この映画撮影に使用された家は生家であるが、昭和四四年までは廃屋であった。それが湖人にゆかりのある人々を中心とした善意によって、往時のように復元された。

「次郎物語」の古里、千代田町では毎年一〇月に「湖人生誕祭」が開催されている。これは町おこし運動の一環となり、年々多彩な内容になっている。この催しにおいて中心的役割を果たすが、生家なのである。次郎そして湖人は、これからも古里の人々の心の中に生き続けていくのであろう。

（佐賀県立武雄高等学校教諭 井上 秀）



下村湖人生家全景

文部省の進展

平成9年度の展望

特集

8 総説

◇文部行政全般の進展／各分野の文教施策の展開

10 文教施策の総合的推進

◇文教政策のための調査研究の充実／「我が国の文教施策」(教育白書)の刊行／教職員の仕事生活設計の推進

12 生涯学習

◇生涯学習の振興／生涯学習の振興のための施策

14 初等中等教育

◇初等中等教育の概況／教育内容・方法の改善／学校週五日制の推進／生徒指導の充実／進路指導の改善／健康教育の充実／国際化・情報化への対応／高等学校教育の改革／幼稚園教育・職業教育・特殊教育の振興／よりよい教科書の提供／学級編制及び教職員配置の改善／教員の資質能力の向上／公立学校施設の整備／海外子女・帰国子女教育の充実／外国人子女教育の推進／人権教育・同和教育の振興

26 高等教育

◇高等教育改革の推進／リフレッシュ教育の推進／理工系人材の養成／医療人の育成／大学院の充実と改革／国立大学の整備充実等／公立大学等に対する助成／大学入学者選抜の改善／育英奨学事業の充実／学生の就職について／マルチメディアの活用

32 私立学校

◇私学行政の概況／私学助成の充実

34 学術研究

◇学術研究の概況／科学研究費補助金と出資制度の拡充／若手研究者の養成・確保／学術研究体制の整備／基礎研究の重点的推進／学術研究の社会的協力・連携の推進

38 社会教育

◇時代の要請にこたえる社会教育事業の充実／社会教育の諸条件の整備

40 スポーツ

◇体育・スポーツ行政の概況／体育・スポーツ施設の整備充実／生涯スポーツの推進／競技スポーツの振興／学校における体育・スポーツの充実

44 文化

◇文化政策の推進／芸術文化の振興／国語・著作権・宗務／文化財の保存・活用／文化施設整備の推進／文化施設の整備・充実

48 国際交流・協力

◇国際交流・協力の概況／留学生交流／教育の国際交流・協力／学術の国際交流・協力／文化の国際交流・協力の推進／スポーツの国際交流／国際機関を通じた協力

52 情報化の推進

◇情報化政策の概況／情報化の進展に対応した各分野の取組

54 文教施設

◇文教施設のインテリジェント化等の推進／初等中等教育施設の整備方針／国立学校施設の整備充実

56 平成9年度予算／文部省の機構定員／文教関係の税制

カラー

I ある日の学校訪問記

◇兵庫県立

兵庫工業高等学校(兵庫県)

4 天然記念物歳時記

◇ケナガネズミ

表2 名作シリーズ◇花の習作

表3 文化財紹介◇佐原市佐原

6 であいふれあい◇千葉麗子

62 焦点◇文教施策

68 中教審ニュース

73 鑑賞席

◇国立国際美術館開館10周年記念

素材と表現

国立西洋美術館所蔵作品を中心に

◇奈良国立博物館の名宝

——世紀の軌跡

74 家庭教育のための取組

◇家庭教育の充実に向けた支援施策

76 都道府県発◇教育・学術文化・スポーツニュース

◇青森県 ◇長野県 ◇岐阜県可児市

◇島根県

78 行ってみようやってみよう

◇国立夜須高原少年自然の家

80 海外教育ニュース

82 文学のふもと◇沈黙

84 編集後記

沈黙

遠藤周作

黎明のほのかな光。光はむき出しになった司祭の鶏のような首と鎖骨の浮いた肩にさした。司祭は両手で踏絵をもちあげ、顔に近づけた。人々の多くの足に踏まれたその顔に自分の顔を押しあてたかった。踏絵のなかのあの人は多くの人間に踏まれたために摩滅し、凹んだまま司祭を悲しげな眼差して見つめている。その眼からはまさにひとしずく涙がこぼれそうだった。

「ああ」と司祭は震えた。「痛い」

「ほんの形だけのことだ。形などどうでもいいことではないか」
通辞は興奮し、せいていた。「形だけ踏めばよいことだ」

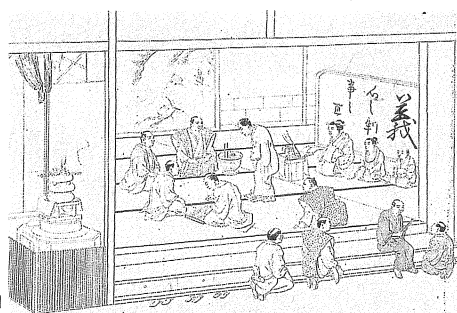
司祭は足をあげた。足に鈍い重い痛みを感じた。それは形だけのことはなかった。自分は今、自分の生涯の中で最も美しいと思ってきたもの、最も聖らかと信じたもの、最も人間の理想と夢にみたされたものを踏む。この足の痛み。その時、踏むがいいと銅版のあの人は司祭にむかって言った。踏むがいい。お前の足の痛みをこの私が一番よく知っている。踏むがいい。私はお前たちに踏まれるため、この世に生れ、お前たちの痛みを分つたため十字架を背負ったのだ。

こうして司祭が踏絵に足をかけた時、朝が来た。鶏が遠くで鳴いた。

(出典「沈黙」新潮社 新潮文庫)



黒崎教会 (外海町黒崎)



シーボルト「日本」から踏絵の図
(長崎県立長崎図書館蔵)



「沈黙」文学碑と黒崎の港 (外海町)

長崎県の西彼杵半島に、外海町黒崎という小さな港町がある。ここは、遠藤周作の代表作「沈黙」の中でクラサキと呼ばれた所で、彼もこの土地をかつて訪れている。

物語の舞台となったのは、島原の乱後、キリスト教への弾圧が激化し、信者にとって受難の時代の長崎である。その中であつて、布教の使命感と、かつての師の背教行為を認めたい思いから日本に渡つた司祭ロドリゴの踏絵に至るまでの葛藤と苦悶に満ちた姿が描かれている。

軽妙洒脱なエッセイや小説なども多く著した遠藤周作は、昭和八年、一〇歳にして洗礼を受け、その後慶應義塾大学卒業後、戦後最初の留學生として渡仏し、リヨン大学で主として現代カトリック文学を研究している。

「沈黙」は、そうした彼の宗教観を示すものであり、信仰・神・人間などについての深いテーマを持った力作である。

物語中に登場する司祭のロドリゴは役人に捕らえられた後、かつての長崎の町中を引き回され、ついに島に近い奉行所(現在の長崎県庁、現・長崎市江戸町)へと連行された。踏絵の後、彼は奉行所に仕える身となり、岡田三右衛門と名のり、三十数年間生活したとある。

現在の長崎市の中でも古い町並みを残す寺町の古寺には、ロドリゴの師フレイラのことを記した過去帳が見られると遠藤周作は書き残している。彼はその思い出を記した書の中で、この黒崎の地をこよなく愛し、幾度も訪ねたことを述べている。

(長崎県立長崎南高等学校教諭 木戸 隆)

特集 文教施策の進展——平成七年度の展望

- 6 総説・文部行政全般の進展方向／各分野の文教施策の展開方向
- 8 文教施策の総合的推進・教育改革の推進／地域における文教施策の充実／文教政策のための調査研究の充実／我が国の文教施策（「教育白書」の刊行／教職員等の生涯生活設計の推進
- 10 生涯学習・生涯学習の振興／生涯学習の振興のための施策
- 12 初等中等教育・初等中等教育の概況／教育内容・方法の改善／学校週五日制の実施／生徒指導の充実／進路指導の改善／健康教育の充実／国際化・情報化への対応／高等学校教育の改革／幼稚園教育・職業教育・特殊教育の振興／よりよい教科書の提供／教職員定数の充実等教育条件の整備／教員の資質能力の向上／海外子女教育・帰国子女教育の充実／外国人子女教育の推進／同和教育の振興
- 22 高等教育・高等教育の現状と整備の方向／高等教育改革の推進／リベリッシュ教育の推進／魅力ある理工系教育の推進／医学教育等の改善／大学院の充実と改革／国立大学の整備充実等／公立大学等に対する助成／大学入学者選抜の改善／育英奨学事業の充実／学生の就職について
- 28 私立学校・私学行政の概況／私学助成の充実
- 30 学術研究・学術行政の概況／科学研究費補助金の拡充／若手研究者の養成・確保／学術研究体制の整備／基礎研究の重点的推進／学術研究の社会的協力・連携の推進
- 34 社会教育・時代の要請にこたえる社会教育事業の充実／社会教育の諸条件の整備
- 36 スポーツ・体育・スポーツ行政の概況／体育・スポーツ施設の整備充実／生涯スポーツの推進／競技スポーツの振興／学校における体育・スポーツの充実
- 40 文化・文化発信社会の構築／芸術文化の振興／国語・著作権・宗教／文化財の保存と活用／文化財の活用／国立文化施設の整備・充実
- 44 国際交流・協力・国際交流・協力の概況／教育・学術・文化・スポーツの国際交流・協力／留学生交流の推進／外国人に対する日本語教育の推進
- 48 情報化の推進・情報化施策の概況／マルチメディアの発展に対応した文教施策の基本的方向と施策
- 50 文教施設・文教施設のインテリジェント化等の推進／初等中等教育施設の整備方策／国立学校施設の整備充実
- 52 平成七年度予算／文部省の機構定員／文教関係の税制

カラー

1 いきいき個性ある日の学校訪問記

・八千代市立萱田小学校（千葉県）

4 天然記念物歳時記

・三春滝ザクラ（福島県）

表2 名作シリーズ・西界介魯茶羅胎蔵界

表3 文化財紹介・道後温泉本館

59 人・この道・フランキー堺

60 私の本棚から・坪井昭三

61 教育・文化と地域づくり⑨・福岡県矢部村

64 焦点・文教施設

68 都道府県発・教育・学術・文化ニュース

・北海道・東京都・島根県・鹿児島県

70 こんにちはにっぽん

・カリフォルニア・ゼーリッヒ

72 '96アトラント・我が国競技スポーツの最前線

・バスケットボール

74 科学はいま・理工系へのいざない

・北海道大学免疫科学研究所

77 鑑賞席・開館100周年特別展

・日本仏教美術名宝展

78 ぼくたち・わたしたちのワークエント

・茨城県岩瀬町教育委員会

80 海外教育ニュース

82 文学のふさと・大阿蘇

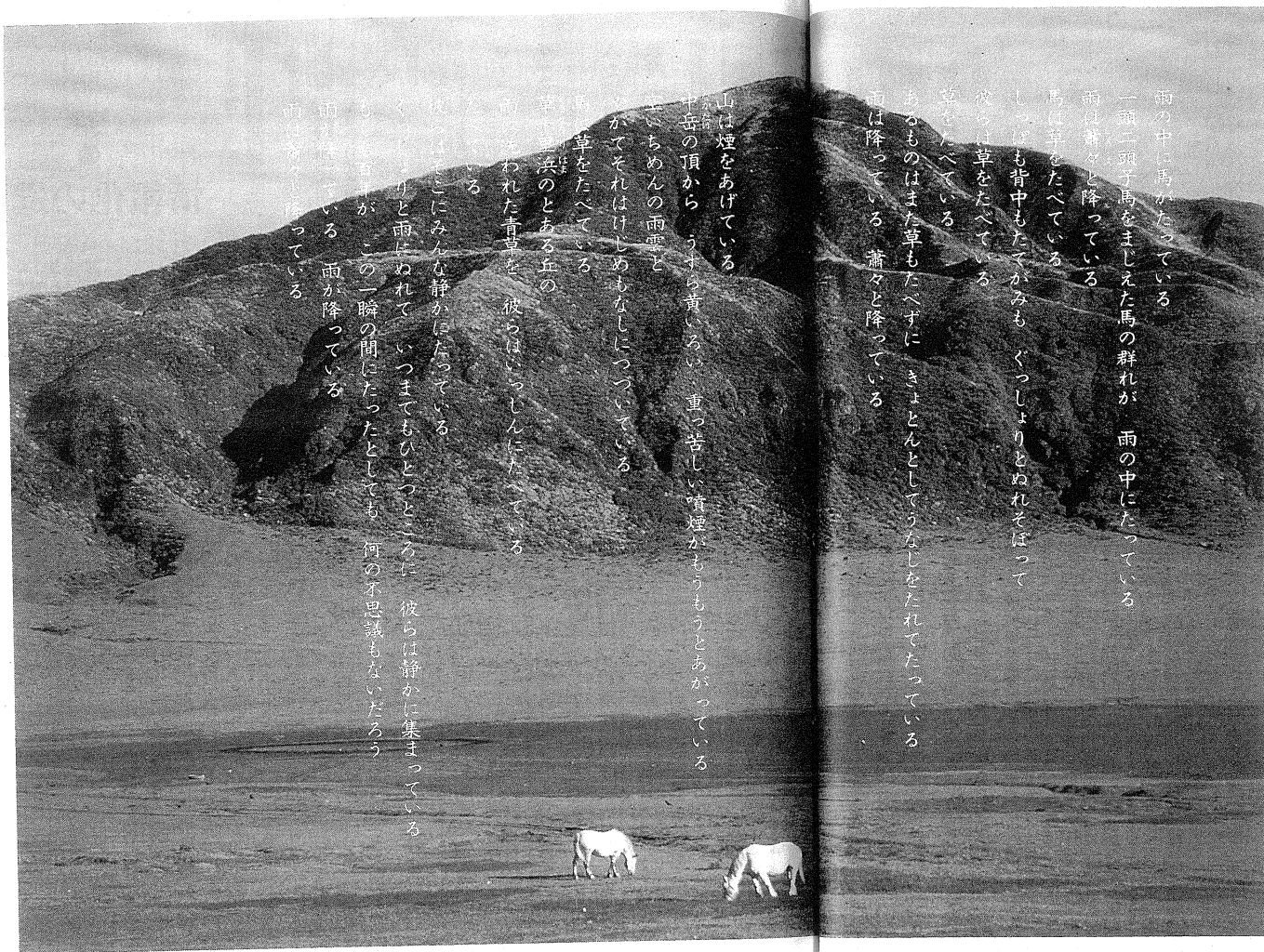
84 編集後記

三好達治

大阿蘇



子供会の行事でたこ揚げをしている地元の子どもたち



雨の中に馬がたっている

一頭二頭子馬をまじえた馬の群れが 雨の中にたっている

馬は蒼々と降っている

馬は草をたべている

しっぽも背中もたてがみも ぐつしよりとぬれをばつて

彼らは草をたべている

草をたべている

あるものはまた草もたべずに きょんとしてうなじをたれてたっている

雨は降っている 蕭々と降っている

山は煙をあげている

中岳の頂から うすら黄いろい 重く苦しい噴煙がもうもうとあがっている

雲いぢめんの雨雲と

がてそれはけしめもなしにつづいている

草をたべている

草をたべている

草をたべた青草を 彼らはいつしんにたっている

草をたべている

彼らはここにみんな静かにたっている

くもりと雨はぬれて いつまでもひとつところに 彼らは静かに集まっている

もやもやが この一瞬の間にたつたとしても 何の不思議もないだろう

雨は降っている 雨が降っている

雨は降っている 雨が降っている

阿蘇は、活発な活動が続ける中岳を含む阿蘇五岳を中心にカルデラを覆う火山灰と壮大な草原、それを取り巻く広大な外輪山から成り立っています。この火の山阿蘇の大自然は、生命の源として人間の営みと長年にわたってかわつていて、文学の上にも豊かな素材を提供してきました。

この詩の作者である三好達治は、明治三三年大阪に生まれ、詩人・翻訳家として知られています。主な詩集に「草千里」、「測量船」などがあります。

彼は昭和十一年夏、二〇年ぶりにこの地阿蘇を訪れ、この「大阿蘇」の詩を書きました。雨の阿蘇に登った彼は、噴煙を上げる中岳を望み、雨雲のもと、馬も草もすべてぬれている草千里浜を眺めたことであらうでしょう。

「大阿蘇」は昭和十二年「雑記帖」に発表されたもので、三好達治の口語自由詩の代表作として知られています。また、萩原朔太郎を師と仰ぎ、生涯を「旅」に

送った漂泊の詩人であったと言われています。

中学二年の国語の教科書に取り上げられているこの詩は題名のとおり、時間感覚をも失わせてしまう阿蘇の広大な情景を詠んだものです。

大阿蘇をいなく地元の中学生たちは、大阿蘇の情景をキーワードや文末表現を手がかりに、「大阿蘇」という題を付けた作者の気持ちや阿蘇の雄大さに迫っています。

阿蘇は夏目漱石、国木田独歩らに愛され、これら文人たちの創作心を大いにかきたてました。

また、阿蘇は、幾多の生物を育み、大自然のすばらしさやときには恐ろしさを教えてくれますし、訪れる人の心を、そのまま映しだしてくれます。そして、今後も、我が阿蘇は、人々を引き付け、人々を癒しつつ、文学のふるさととなり続けることでしょう。

（熊本県教育委員会義務教育課 指導主事 城 重幸）

特集 スクールカウンセラー

巻頭言 8 教育改革とスクールカウンセラー 河合隼雄

座談会 10 スクールカウンセラーの

活用と学校教育

——出席者 石川順子／村山正治／富山謙一／藤原里美／（司会）河村潤子

論文 22 スクールカウンセラーの学校教育への
導入の必要性和問題改善策 松原達哉

エッセイ 26 子どものなかの何を信じますか？ 黒沢幸子

事例紹介 28 不登校に対する新しい試みを通して 東京都新宿区立西戸山中学校

31 平成九・一〇年度スクールカウンセラー
活用調査研究校の実践 福岡県粕屋郡須恵町立須恵中学校

34 カウンセリング機能の充実に向けて 京都市教育委員会

解説 38 「スクールカウンセラー活用調査
研究委託」事業について 初等中等教育局中学校課

42 教育相談体制の充実 初等中等教育局中学校課

資料 44 中央教育審議会答申（抄）／
次代を担う青少年のために——いま、求められているもの——
スクールカウンセラー活用調査研究校（平成一〇年度）

特別記事 「少子化への対応を考える有識者会議」提言について

52 少子化への対応を考える有識者会議 生涯学習局男女共同参画学習課

54 夢ある家庭づくりや子育てができる
社会を築くために（提言） 文部省関連部分抜粋

カラー

1 記念館めぐり・ゆかりの地を訪ねて
北海道立三好太郎美術館（北海道）

4 天然記念物歳時記 神屋・湯湾岳

表2 名作シリーズ 荊冠のキリスト

表3 文化財紹介 雨の宮古墳群

6 私と教育、私として べま・ギヤルボ

62 焦点 文教施策 中教審ニュース

64 私の選んだ一冊 青山佳世

67 都道府県発 埼玉県 埼玉県 埼玉県

68 都道府県発 埼玉県 埼玉県 埼玉県

70 科学はいま 広島県高野町、高知県高知市

72 現代スポーツあれこれ 網引

74 行ってみよう やってみよう 国立信州高遠少年自然の家

76 海外教育ニュース 江津湖五句

78 文学のふもと インフォメーション

80 インフォメーション 鑑賞席

83 鑑賞席 編集後記

84 編集後記

江津湖 五句

中村汀女

うき草のよする汀や阿蘇は雪

水を出る刈藻まさをや冬麗ら

麦の芽に艫の音おこり遠ざかる

枯芭蕉草生ふ水のあたたく

ながれゆく水草もあり冬日暮る

(出典:『汀女句集』より 昭和一九年 甲鳥書林)



線につつまれた水辺



江津湖岸の汀女の句碑

熊本市の名園水前寺は廻れることのない湧水の池で知られる。その湧水の流れる先にヒョウタンのよう広がる江津湖がある。

ここが俳人・中村汀女(本名・破魔)が「朝夕湖を見て育った」と回想するその湖であり、生涯恋うてやまなかった生誕の地である。ウソのような話だが、この江津湖畔の民家では庭先に竹筒を打ち込むと清冽な湧き水がほとばしり、つい最近まで生活用水として使われたものである。

汀女は明治三十三年四月一日、この江津湖畔で斎藤平四郎・亭夫妻の一人娘として生を受けた。県立女学校(現第一高校)で感性を磨き、一八歳の時に初めて「我に返り見直す隅に寒菊赤し」など三句をものじ、以後熊本に本社があった九州日日新聞(現熊本日日新聞)の俳句欄や俳誌『ホトトギス』でぐいぐい頭角を現していった。のち「女流俳人四十一」と呼ばれた汀の一人、汀女の輝かしい誕生であった。一時期、汀女らの句に「台所俳句」とけなす批評が登場したこともあったが、「女性の職場は家庭、仕事の中心は台所。ひとりの女の明け暮れを一人だけの言葉で文字にする」、それで結構では、とたじろぎもしなかった。

汀女の生家跡付近に立つと阿蘇の山並みが遠望される。まさに「うき草のよする汀や阿蘇は雪」であり、「ながれゆく水草もあり冬日暮る」(江津湖五句)の風景が広がる。近くの熊本近代文学館には汀女のコーナーが常設され、裏の川辺には「とまればあたりにふゆる蛸蛉かな」の句碑も建っている。

(熊本近代文学館副館長 松永茂生)



汀女を育んだ江津湖の水辺

平成九年 年頭の所感◆文部大臣 小杉 隆

特集 学術の振興と社会の発展

巻頭言◆12 これからの学術研究◆有馬朗人

座談会◆14 学術の振興と社会の発展

◆(出席者)鈴木昭憲／松本和子／小野田 武／鳥井弘之◆(司会)坂本幸一

論文◆24 基礎研究と社会の発展について◆西田篤弘

◆28 若手研究者の育成のために◆大崎 仁

◆32 産学連携・協力の意義と今後の課題◆大滝義博

◆36 人文科学の発展について◆河合肇雄

エッセイ◆40 今どきの子供たちとサイエンス◆紺野美沙子

事例紹介◆42 脳から心へ

高次精神機能の解明に挑む◆宮下保司

事例紹介◆44 熱帯林の環境変動と一斉開花◆京都大学生態学研究センター

事例紹介◆46 原子レベルの表面加工◆COE・大阪大学超精密加工研究拠点

事例紹介◆48 ハワイの大望遠鏡◆国立天文台

解説◆50 科学技術基本計画の策定と

学術研究の振興◆学術国際局学術課

「ある日の学校訪問記」

◆金沢大学教育学部附属中学校

(石川県)

4 天然記念物歳時記―花こよみ

◆荒川のカシサクラ自生地◆津軽県

表2 名作シリーズ

◆色絵金銀彩羊歯文八角節箱

表3 文化財紹介◆大善寺玉垂宮の鬼夜

10 であいふれあい◆春風亭柳昇

54 焦点◆文教施策

60 お知らせ

61 刊行物紹介

62 中教審ユース

66 ポイント生涯学習

◆学社融合推進プロジェクト

68 都道府県発―教育・学術・文化・スポーツユース

◆愛知県◆福井県◆和歌山県◆大分県

70 どんな講座こんな講座―大学の公開講座から

◆東京商船大学◆京都大学

72 現代スポーツあれこれ

◆総合型地域スポーツクラブの育成

74 科学はいま―理工系へのいざない

◆東北大学流体科学研究所

77 鑑賞席◆興福寺国宝展

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

◆岐阜県和良村教育委員会

80 海外教育ユース

82 文学のふさと◆福翁自伝

84 編集後記

福翁自伝

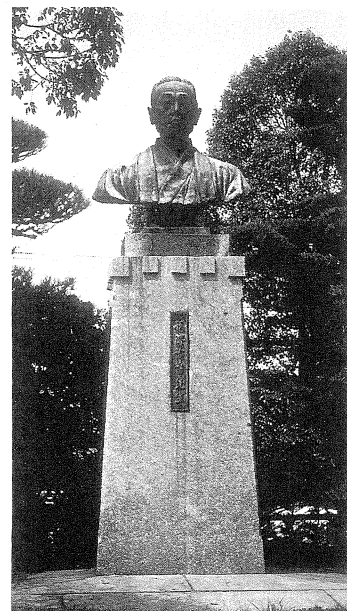
福沢諭吉

一体、中津の藩風と云ふものは、士族の間に門閥制度がチャント定まつて居て、其門閥の堅い事は、常に藩の公用に就てのみならず、今日私の交際上、小供の交際に至るまで、貴賤上下の区別を成して、上士族の子弟が私の家のやうな下士族の者に對しては九て言葉が違ふ。私などが上士族に對して「アナタが如何なすつて、斯うなすつて」と云へば、先方では「貴様が爾う為やつて、斯う為やれ」と云ふやうな風で、万事其通りで、何ても不平がなくては居られない。其癖、今の貴様とか何とか云ふ上士族の子弟と、学校に行て読書会読と云ふやうな事になれば、何時でも此方が勝つ。学問ばかりでない、腕力でも負けはしない。

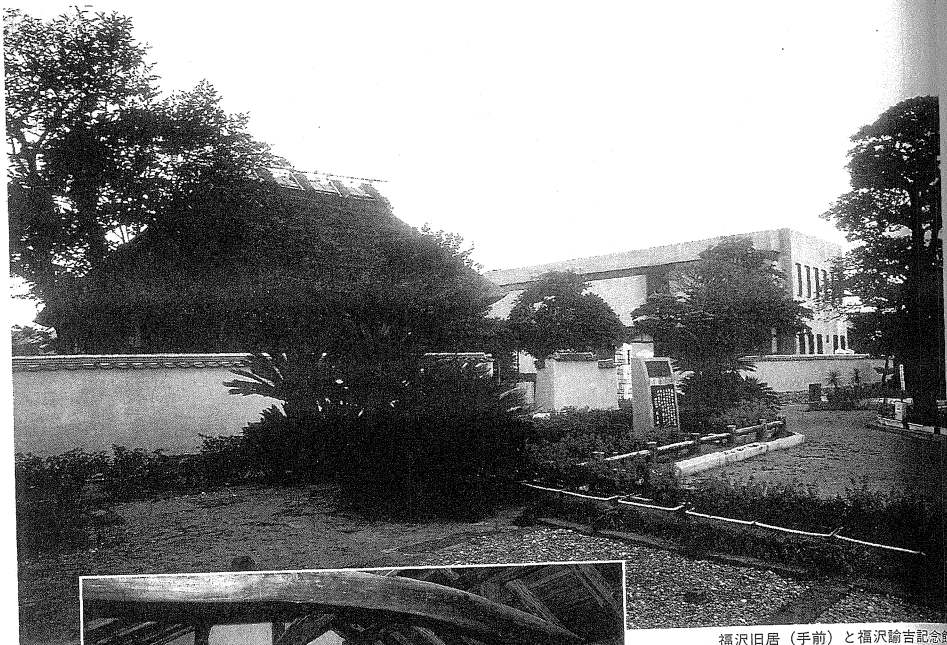
い。夫れが其交際、朋友互に交つて遊ぶ小供遊の間に、ちゃんと門閥と云ふものを持て横風至極だから、小供心に腹がたて地らぬ。

(中略)

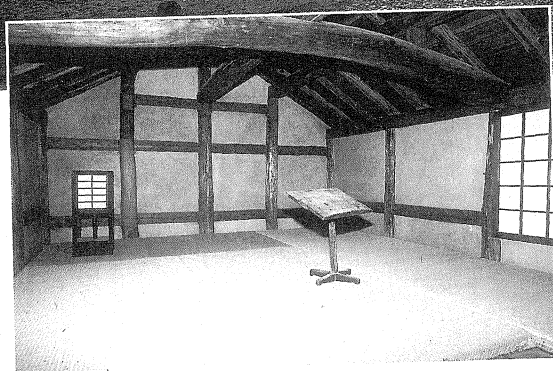
或るとき私の兄が家老の処に手紙を遣て、少し学者風で其表書に「何々様下執事」と書いて遣たら大に叱られ、「下執事とは何の事だ、御取次衆と認めて来い」と云て、手紙を突返して来た。私は之を見ても、側から独り立腹して泣いたことがある。馬鹿々々しい、こんな処に誰が居るものか、如何したつて是れはモウ出るより外に仕様がなないと、始終心の中に思て居ました。



福沢諭吉の胸像（大分県中津市）



福沢旧居（手前）と福沢諭吉記念館の全景（大分県中津市）



少年時代読書した土蔵の二階

福沢諭吉（一八三五一—一九〇一年）は、大阪の中津藩（現在の分県北部）蔵屋敷に生まれたが、一歳半で父を亡くし、中津（大分県）に帰った。下級士族であったため、門閥制度の強い藩内で多くの屈辱の体験をした。

少年時代は漢学を学んだが、一九歳のとき長崎に行き蘭学を学び、翌年大阪に出て緒方洪庵の適塾に入つて本格的に蘭学を学んだ。間もなく塾長となったが、ここで彼は自由の雰囲気の中で、本当の科学を知った。

一九五八年藩令によつて江戸に出て蘭学の家塾を開いた。これが慶応義塾の始まりであり、今日まで続いている。翌年開港直後の横浜を訪ね、英学の必要を痛感して独学で英語を学んだ。

一八六〇年、遣米使節団の随員を志願して、米國を訪問。続いて、一八六二年にはヨーロッパ巡遊使節団の随員としてヨーロッパ六か國を巡遊した。さらに一八六七年には、遣米使節団の随員として再び米國を訪問した。

その間、『西洋事情』、『学問のすすめ』、『文明論の概略』等多くの名著を公にするとともに、『時事新報』等を発行執筆して啓蒙活動を続けた。

その後、福沢諭吉は婦人解放を主張した多くの婦人論、西欧諸國の東亞侵入に對抗するための「脱亞論」等の論陣を張った。最後に公にした『福翁自伝』は世界の自伝文学中の白眉とされている。没年六六歳。

大分県中津市の旧居と並んで建てられている福沢諭吉記念館は、遺品、遺墨、資料などを数多く展示している。

（元九州国際大学学長、福沢諭吉協会会長 横松 宗）

特集 教育課程の基準の改善

巻頭言 8 新しい教育課程 三浦朱門

座談会 10 これからの

学校教育への期待

(出席者) 河野重男／秋山 仁／大澤正子／山谷えり子／(司会) 銭谷眞美

論文 18 幼稚園教育の改善に向けて 塩 美佐枝

22 小学校教育の改善に向けて 無藤 隆

26 中学校教育の改善に向けて 田村哲夫

子どもたちの自分さがしの旅を扶ける営み

30 高等学校教育の改善に向けて 工藤文三

34 特殊教育の改善に向けて 細村迪夫

障害児が自立し、社会参加するために

解説 38 教育課程の基準の改善Q&A 初等中等教育局小学校課教育課程企画室

45 資料

特別記事

表外漢字の字体について

48 提言●「表外漢字字体表試案」について 水谷 修

50 論文●学校教育と表外漢字 小林一仁

52 ●漢字出現頻度数調査と表外漢字 樺島忠夫

54 資料●「表外漢字字体表試案」の本表 文化庁文化部国語課

カラー

1 記念館めぐり●ゆかりの地を訪ねて

小泉八雲記念館(鳥根県)

4 天然記念物歳時記

上高地

表2 名作シリーズ

フルターニ風景

表3 文化財紹介

鑄金

6 私と教育、私として

セルジオ越後

58 焦点—文教施策

中教審ニュース

インフォメーション

69 都道府県発

●教育・学術・文化・スポーツニュース

石川県珠洲市、京都府
徳島県、川崎市

72 現代スポーツあれこれ

テコンドー

74 行ってみよう やってみよう

国立室戸少年自然の家

76 海外教育ニュース

文学のふるさと やよよ少年たちよ

80 インフォメーション

鑑賞席

84 編集後記

やよ少年たちよ

若山牧水

若竹の伸びゆくごとく子ども等よ

真直ぐにのばせ身をたましひを

をさな日の澄めるころを求かけて

濁すとはすな子供等よやよ

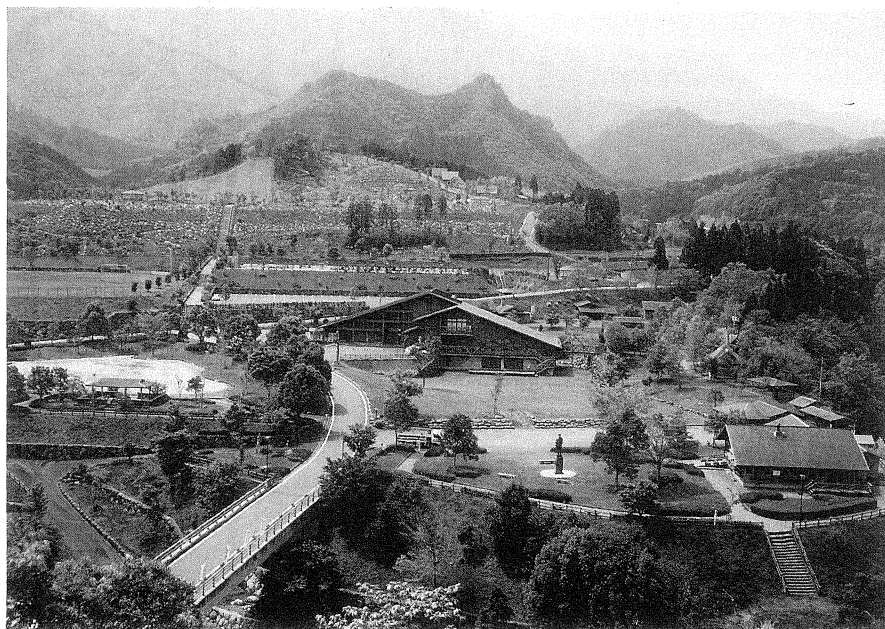
すみやかに過ぎゆくものをやよ子等よ

汝が幼な日をおろそかにすな

うつくしく清き思ひ出とどめおかむ

願ひを持ちて今をすごせよ

(出典『若山牧水全歌集』短歌新聞社)



牧水公園 (東郷町)

宮崎県東郷町坪谷に生まれた若山牧水は、明治四三年に出版した歌集『別離』によって国民的歌人となりました。

その『別離』の中に「けふもまたころの鉦をうち鳴しうち鳴しつあくがれて行く」という有名な一首があります。この「あくがれ」の心こそ生涯にわたって牧水を衝き動かしていたものでした。「あくがれ」の語源は「在処」を「離る」、つまり魂がいま在るところを何かに誘われ離れ去って行くという意味で、そこから「思いこがれる」といった今日の意味が生じたのですが、牧水はまさに「あくがれ」続けた歌人でした。美しい山や川をもつ生まれ故郷の自然がそのような牧水を育てたと言えます。

みずからも「あくがれ」をもって生きた牧水は子どもたちが大好きでした。子どもこそ「あくがれ」のかたまりと思えていたからです。子どもたちが生き生きと日々を送り、自分を豊かに成長させ、未来への夢を育んでくれることは大きな願いでした。そんな牧水が子どもたちに向かって直接に呼びかけて作った歌が歌集の『黒松』の「やよ少年たちよ」九首です。この歌を発表した大正二年は、自分の編集する歌誌『創作』に「子供の歌」という欄を設けた年でもありました。子どもは不思議なほど能力をもっているというのが牧水の変わらぬ信念でした。牧水の故郷の坪谷の子どもたちは、いま「牧水かるた」で大先輩の心に親しみ、「あくがれ」の心を育てています。

(宮崎県教育研修センター情報・相談課主任 伊藤一彦)



牧水生家



牧水記念館 (東郷町)



若山牧水 38歳の頃

特集
教員の資質向上——教員養成・研修の充実

巻頭言 ● 6 教職員への期待・今村武俊

座談会 ● 8 社会の変化と教員に求められる資質
・(出席者) 蓮見直彦/大野 忠/中 進士/橋口宇子/金平敬之助・司会 松元昭憲論文 ● 18 これからの教員養成・教員研修
——戦後五〇年の集積の上に・野地潤家

● 22 情報教育の教員養成と研修・赤堀侃司

● 25 生徒指導と教員養成・研修・羽田絃一

エッセイ ● 28 アメリカ人から見た日本の先生・ケント・ギルバート

事例紹介 ● 30 教員養成・現職教育への新たな取組
——信州大学教育学部の場合・信州大学事例紹介 ● 33 親しまれ頼られる教育センターを目指して
・岩手県立総合教育センター

事例紹介 ● 36 教頭等民間派遣研修・岐阜県教育委員会

事例紹介 ● 39 校内における初任者研修の取組・島根県出雲市立北陽小学校

解説 ● 42 教員の養成・研修の充実について・教育助成局教職員課

● 48 諸外国の教員養成・研修・大臣官房調査統計企画課

カラー

1 いきいき開花する日の学校訪問記
・はまぐみ養護学校(新潟県)4 天然記念物蔵蔵記
・吹割溪ならびに吹割瀑(群馬県)

表2 名作シリーズ・当麻曼茶羅図

表3 文化財紹介・史跡夏見庵寺跡

50 与謝野前文部大臣、CERN理事会に出席

52 人・この道・諸井 誠

53 教育・文化と地域づくり ● 愛知県稲武町

56 焦点 文教施策
私の本棚から・水谷 修

64 中教審ニュース

66 都道府県発—教育・学術・文化ニュース
・秋田県・愛知県・大阪府・佐賀県68 こんなにはなつぽん
・アンバタール・パンカージ

70 '96アトラクター我が国競技スポーツの最前線・卓球

72 科学はいま—理系へのいきさつ
・京都大学防災研究所

75 刊行物紹介

76 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド
・広島県教育委員会78 海外教育ニュース
海外教育ニュース80 鑑賞席・人体の世界
鑑賞席・ハンガリー世紀末の建築と82 文学のふもと・西郷隆盛
応用美術

84 編集後記

西郷隆盛

稚児時代の西郷には、とくにおもしろい話もないが、ただ一つ、十三の時、人と決闘して、右の腕を斬られ、それがもとで腕が伸びなくなった話がある。

— 中略 —

子供が喧嘩して怪我するくらいのは、今日でもよくあることだし、ぼくらの少年時代頃までは、薩摩という土地柄のせいもあって、実にひんぴんとしてあり、その経験のない者はおそらく一人もあるまいが、西郷にあってはそれが生涯を決定するほどの重大事になった。

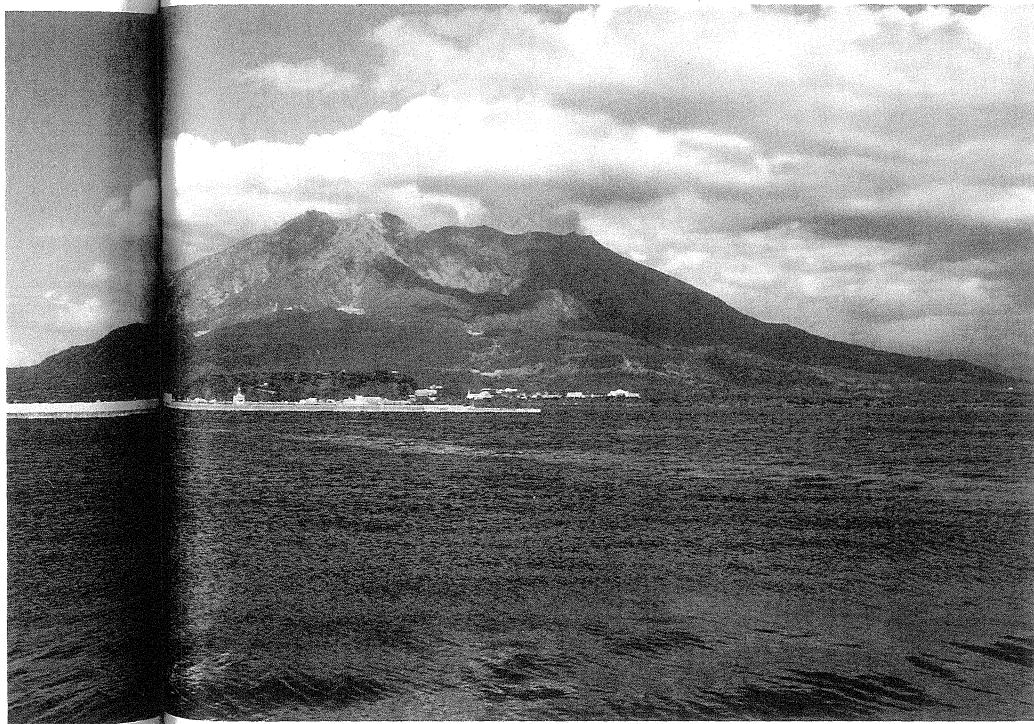
「おいはいもう武芸でご奉公は出来んようになった。学問を上げ、それでご奉公の道をつくす」と、決心し、学問に熱心になったというのである。

武士は武芸が表芸ということになっている。それを断念しなければならぬと決めた西郷の心は悲痛なものがあつたらう。いく日も人知れず泣いて

て考えこんでの末のことであらう。

西郷は体格が大きくてたくましかったせいもあって、角力が終生好きで、青年時代まではよく自分でとっているが、それは剣槍の術を断念した補いの気持からのものもあつたらう。

城山展望台から望む桜島



終焉の地城山のふもとに建つ西郷隆盛像



母校県立加治木高等学校に建つ海音寺の文学碑

キリスト教、鉄砲など西洋文化伝来の地となり、また明治維新の立役者西郷隆盛、大久保利通らを輩出した鹿児島。いまも噴煙を上げる火の山桜島、霧島。世界遺産条約登録の島、屋久島。それらを取り巻いて青く白く続く海岸線。峻厳と柔和、両者が融け合った雄大な自然の中に、南国特有の豊かな人情が鹿児島には息づいています。

この地に生まれ、幕末、明治の日本を舞台に活躍し、そしてこの地に悲劇の死を遂げた西郷隆盛は、鹿児島の人々にとって、単に郷土の一偉人というにとどまりません。西郷の「敬天愛人」の思想、「道義」の哲学、その総体としての人生に、鹿児島に育つ子供たちは必ずどこかで触れています。西郷は、もはや一つの風土であるといっても過言ではないでしょう。誕生の地近くに建てられた「維新ふるさと館」は、子供たちから大人まで「ふるさと」を学ぶ多くの人たちににぎわっています。

作者の海音寺潮五郎は、明治三四年、県北の町大口市生まれ。歴史小説を主に活躍した作家として知られ、主な作品には、『平将門』、『天と地と』などがあります。史伝『西郷隆盛』は、『西郷が好きで好きでたまらない』海音寺が、昭和三十六年から一六年間、二度の大患いを超えて文字どおり心血を注いで書いた大作ですが、第九巻で海音寺の死によって未完となりました。享年七十六歳。母校の県立加治木高等学校（旧制加治木中学校）には、海音寺の文学碑が建てられています。

「私の人間美学はここで形成された。当時の校風が男はいかにあるべきかを私に教えた。私はその美学に従って生きその美学を文学化しつづけて今年七十四という歳になった」刻まれた海音寺のことばは、郷土への深い感謝と愛情に満ちています。

（鹿児島県教育委員会 大平和男）
（学校教育課指導主事）